

# V I N A S

## 一括転送方式（一括送受信モジュール）環境設定手順書

### 第 2.4 版

平成 2 6 年 1 0 月 9 日

福岡流通 V A N 株式会社

## 1. はじめに

今回配布致しました CD-ROM 内には以下のものが納められていますので、お手数ですが  
**インストールを進められる前にご確認をお願い致します。**

- ①VINAS 一括転送方式（一括送受信モジュール）環境設定手順書 初版（本書）
- ②j2sdk-1\_4\_2\_16-windows-i586-p.exe （JavaRunTime1.4.2 のインストール媒体）

（注）

Windows2000、Windows XP をご使用になられるお取引様に提供する

モジュールでの JavaRunTime の保証バージョンで 1.4.2 以外は、

1.4.0、1.4.1、1.5.0 となっております。

1.3.X 以前をインストールされている場合は、サポートセンターまでお問合せ  
下さい。

Windows VISTA、Windows7 をご使用になられるお取引様に提供するモジュールでの  
JavaRunTime の保証バージョンは 1.4.2\_16、1.5.0 までとなっております。

1.4.2\_16 以前をインストールされている場合は、サポートセンターまでお問合せ  
下さい。

- ③一括転送方式（一括送受信モジュール）インストーラ（NAFCO\_EDI\_MODULE.EXE ; Ver2.1.0）

- ④tpad089a.exe （TeraPad インストール媒体）／フリーソフト

（注）

TeraPad とは、環境設定ファイル（config.xml, log4j.xml）を編集する際に  
使用します。

既に UTF-8 の文字コードが編集可能なエディタをお持ちの場合はインストール  
不要です。

上記①～③は必須となります。

ご不明な点ございましたら、以下、お問合せ先までご連絡下さい。

（お問合せ先） 福岡流通 VAN 株式会社 ナフコ様 EDI（VINAS）システム担当  
TEL ; 092-526-3231 FAX ; 092-526-5757

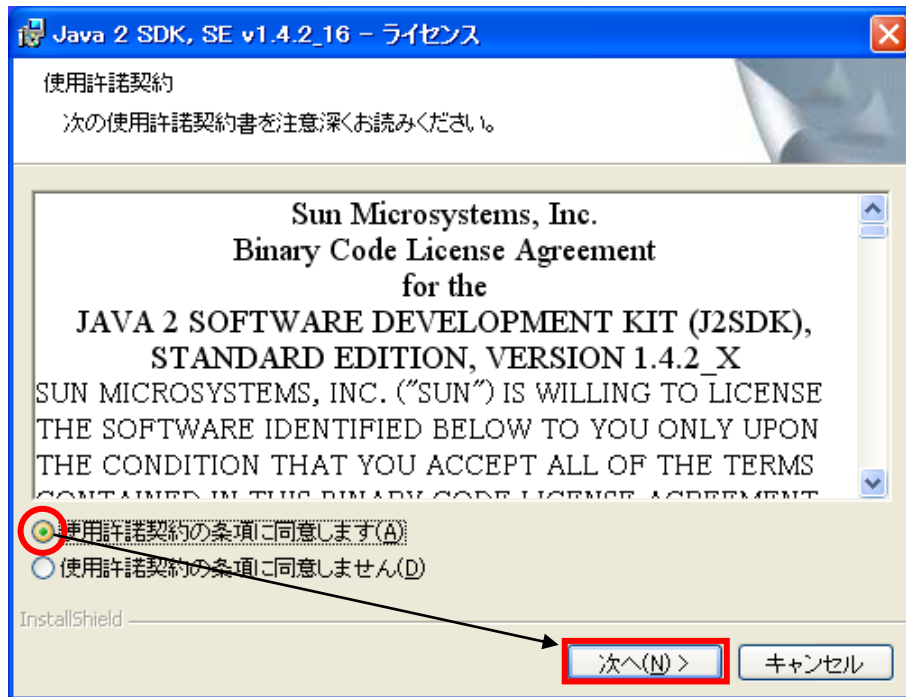
内容確認できましたら、次ページ以降の順に沿って環境設定を進めて下さい。

## 2. JavaRunTime (j2sdk 1.4.2) のインストール

①CD-ROM 内の “j2sdk-1\_4\_2\_16-windows-i586-p.exe” をダブルクリックし、インストールを実行して下さい。インストールの流れについては、次の通りとなります。

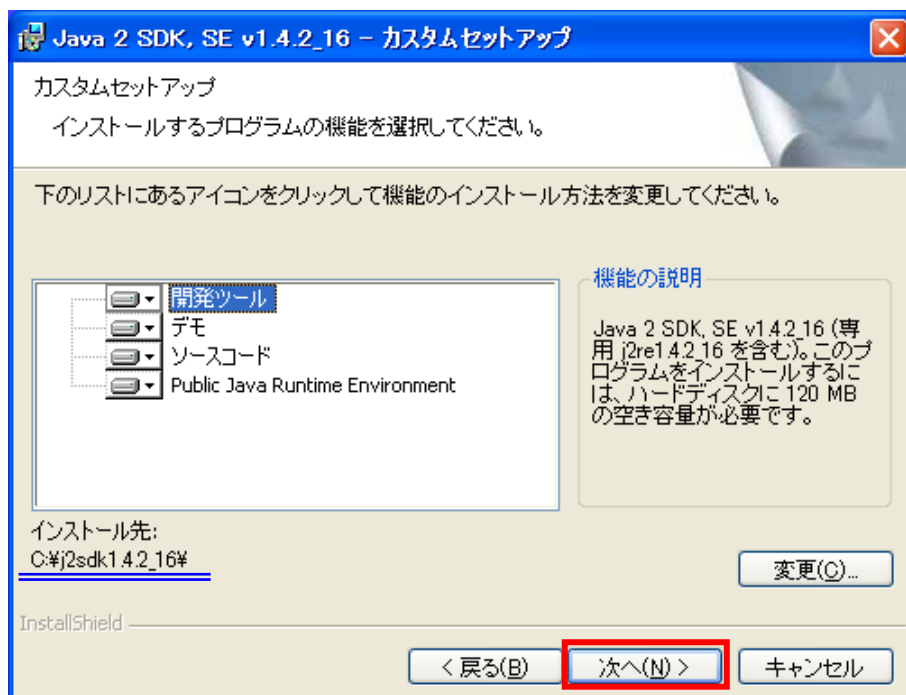
(インストールの流れ)

- 1) 「j2sdk-1\_4\_2\_16-windows-i586-p.exe」をダブルクリックし起動します。起動すると以下の画面が表示されますので、“同意します”を選択し“次へ”を押下します。

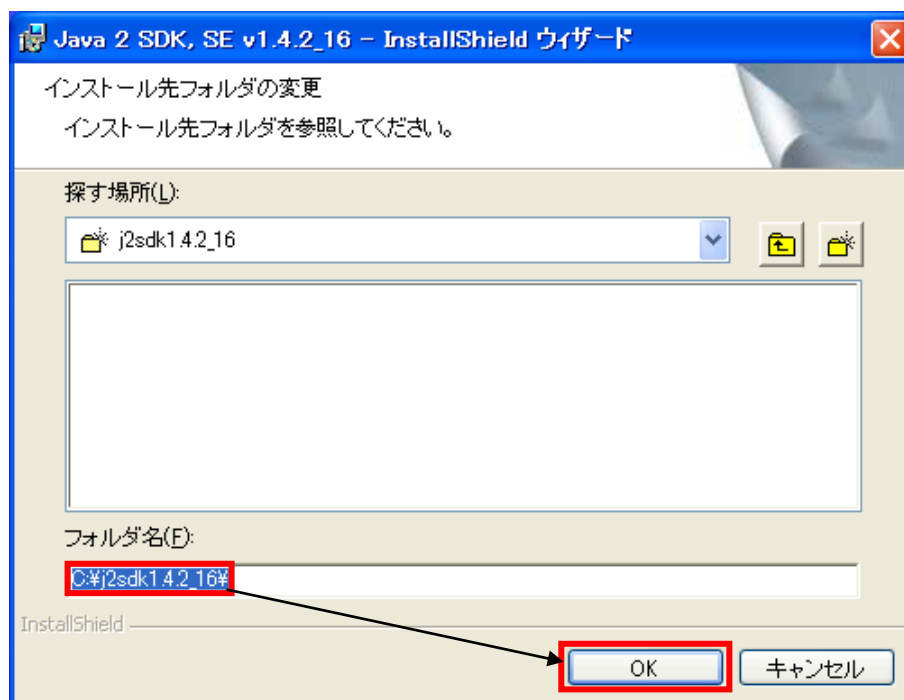


- 2) JavaRunTime インストール先（ドライブ）に変更がない場合は、デフォルトのまま、「次へ」を押下します。インストール先の変更を行う場合は以下の通り変更を行い、「次へ」を押下します。

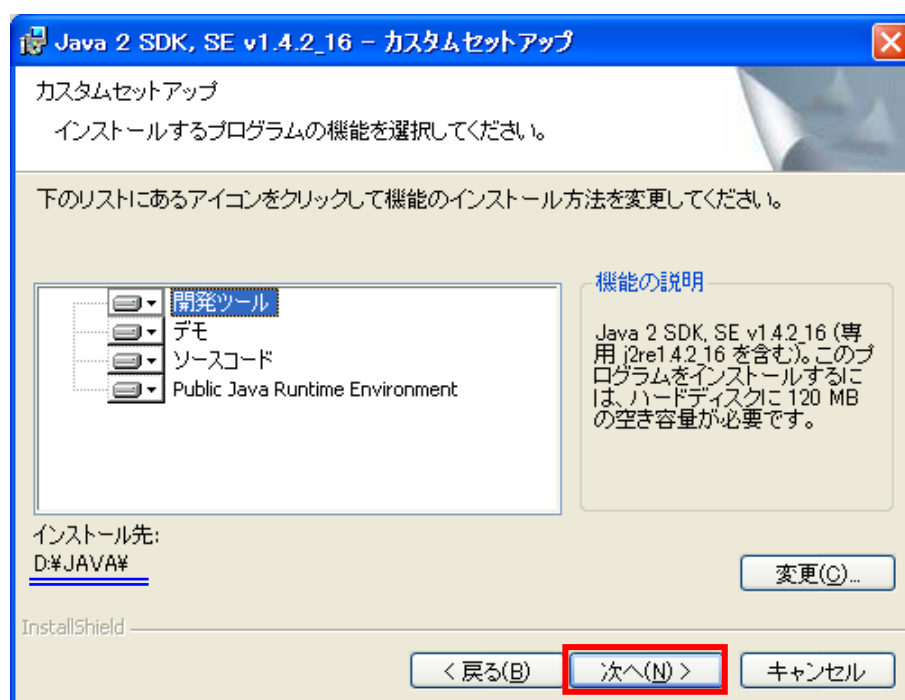
(変更前；デフォルト)



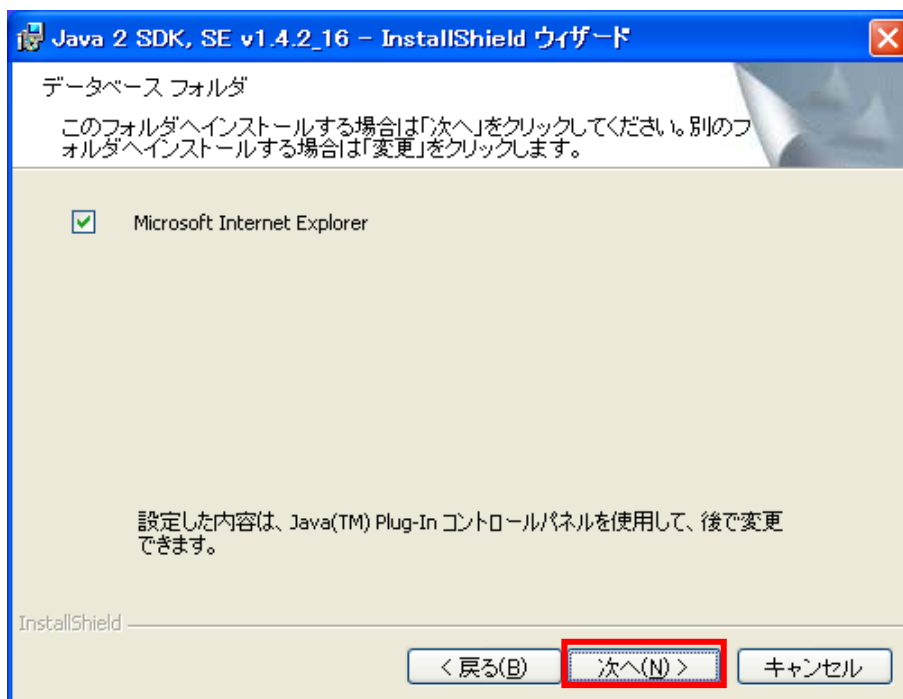
(変更ボタン押下、ドライブ変更後)



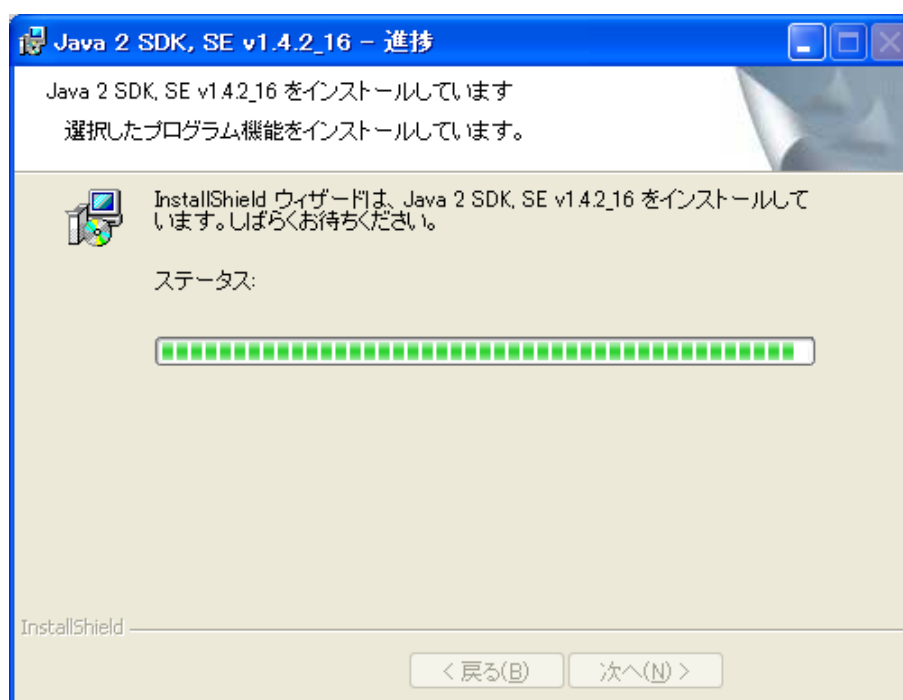
(OK ボタン押下後)



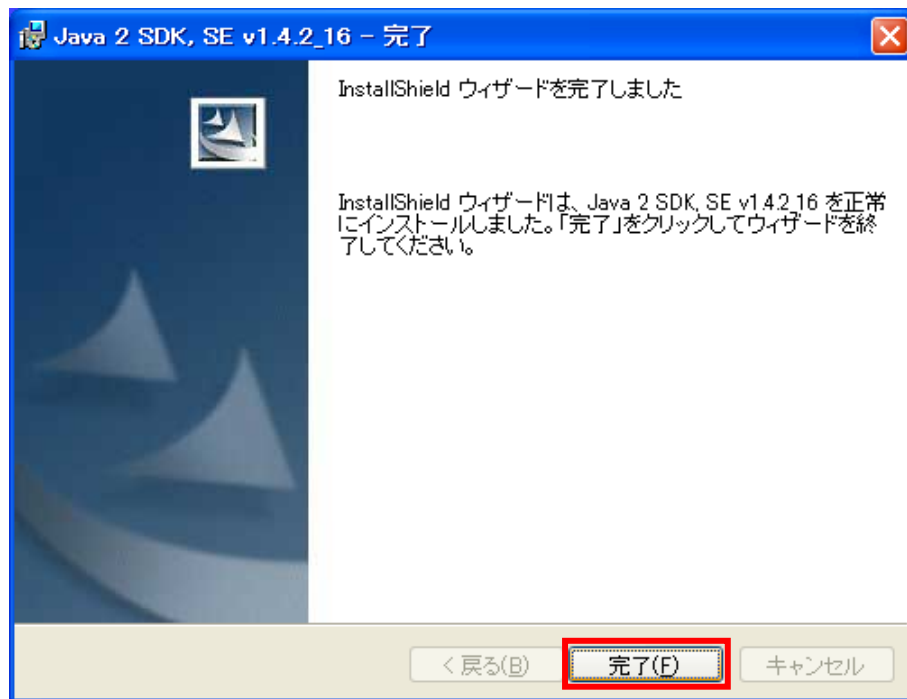
3) 「次へ」を押下します。



4) インストールが開始します



5) インストールが完了すると、以下の画面が表示されますので、「完了」を押下します。



6) インストール完了後、JavaRunTime のバージョン自動更新を行わないように、以下の設定変更を行います。

(デスクトップの常駐タスクで「JavaUpdate」を右クリック → 「プロパティ」)

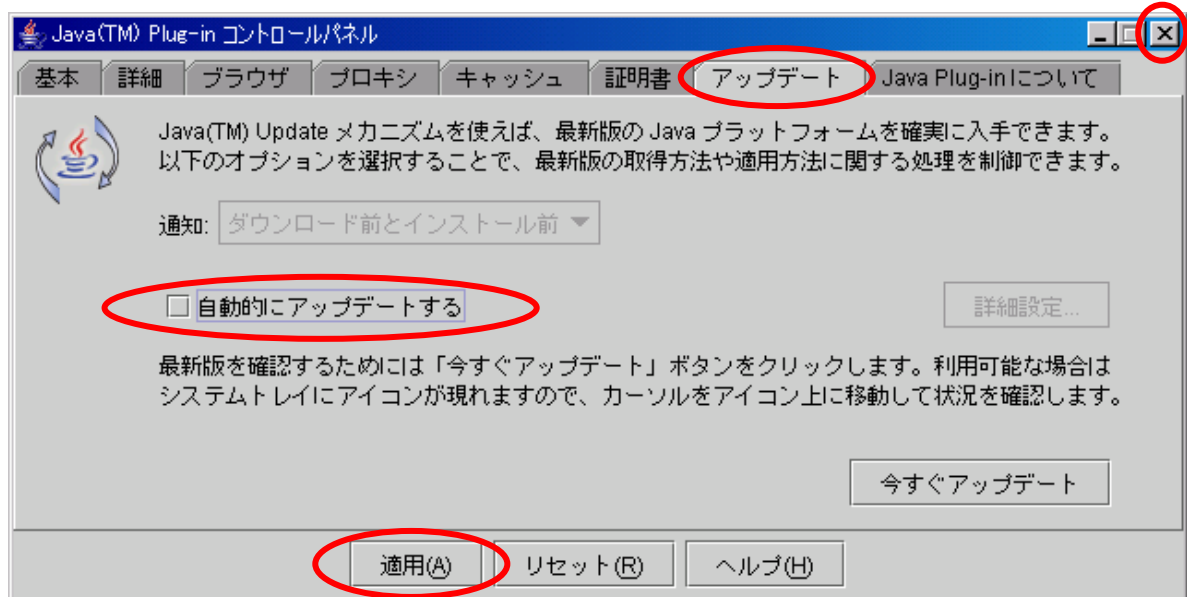


(上記のようにデスクトップの常駐タスクない場合は次の手順で開いてください。)

(スタートメニューの「コントロール パネル」 → 「Java Plug-in」)

(「アップデート」 タグをクリック

→ 「自動的にアップデートする」のチェックを外す → 「適用」を押下する)



「適用」クリック後は「×」ボタンで閉じてください。

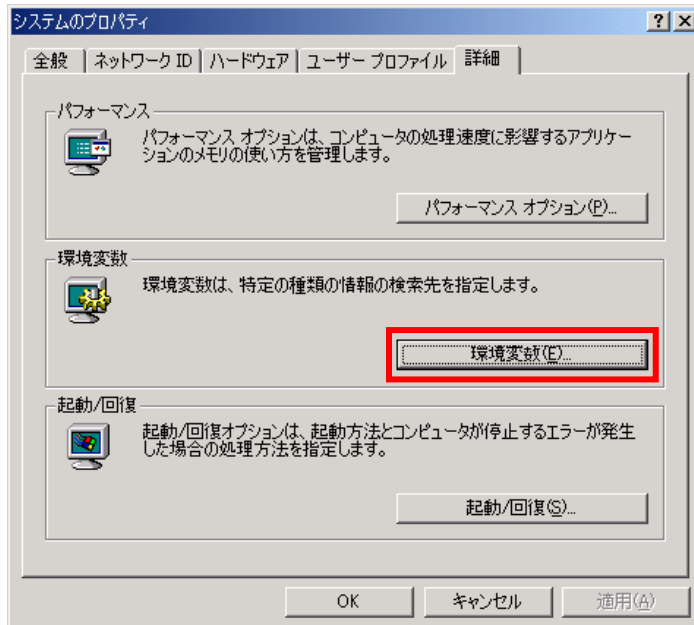
※動作保証以外の JavaRunTime のバージョンアップは、お取引先様の責任範囲において作業をお願い致します。

### 3. 環境変数 (Path) の設定

Windows システム環境変数へ JavaRuntime インストール先 (ドライブ名¥フォルダ名) の設定を行います。 **C ドライブへインストールした場合の設定例です。**

(Windows2000 の場合) C:¥j2sdk 1.4.2\_16¥bin

- 1) [マイコンピュータ] - [コントロールパネル] - [システム] の詳細タブのなかの環境変数をクリックする。

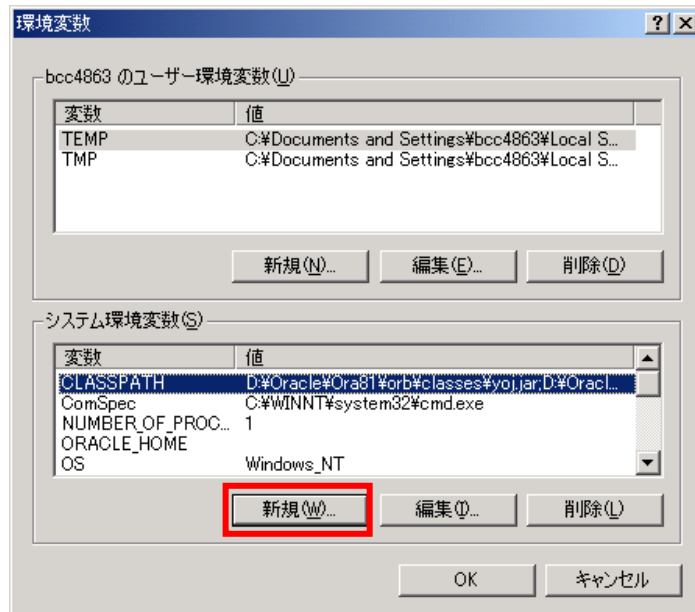




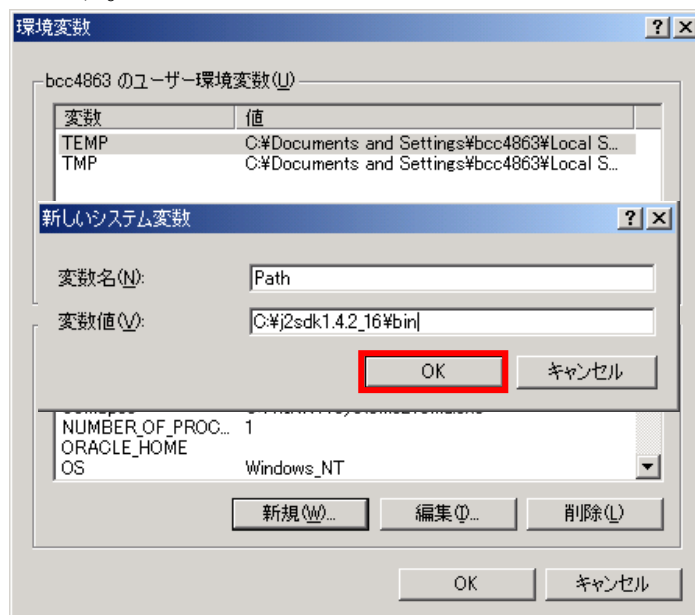
2) システム環境変数に Path 変数を追加する。既にシステム環境変数に Path 変数がある場合は、値の先頭にパスを追加設定する。

(Path 変数追加の場合)

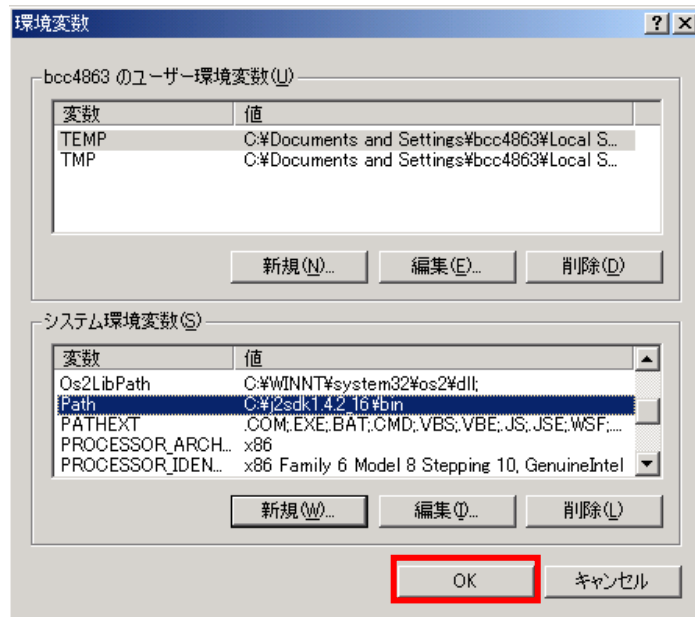
1. 「新規」をクリックする



2. 変数名に“Path”、変数値に“C:¥j2sdk1.4.2\_16¥bin”を入力し、「OK」を押下します。



3. Path 変数が追加されますので、再度「OK」を押下し追加完了です。

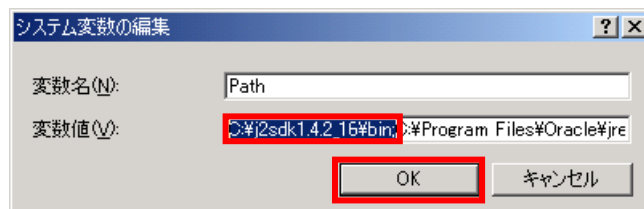


(Path 変数が既に設定されている場合)

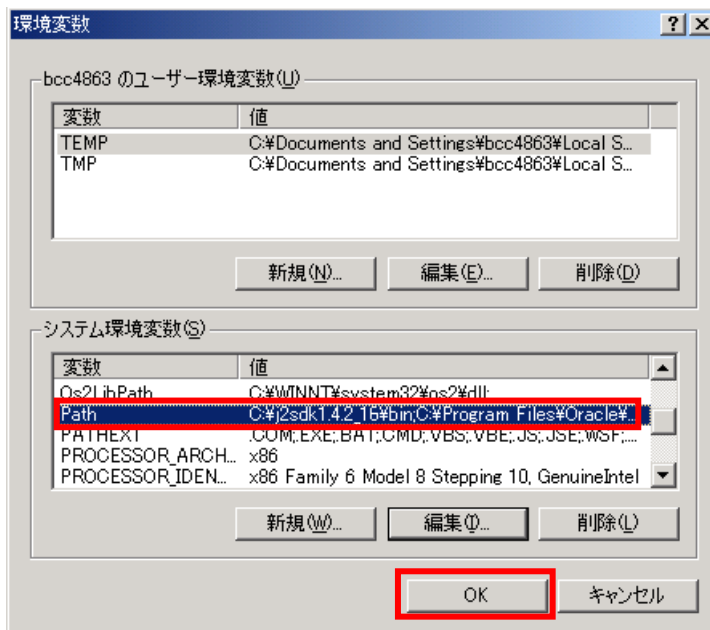
1. Path 変数追加時と同じように環境変数設定画面を開き、Path 変数を反転させて「編集」を押下する。



2. 変数値の先頭に値 “C:\j2sdk1.4.2\_16\bin;” を追加し、「OK」を押下する。

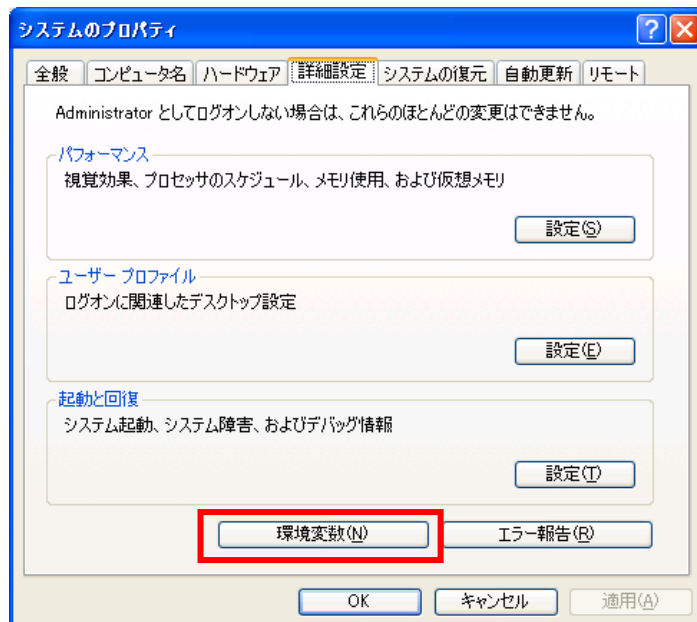


3. 追加完了。「OK」を押下する。



(Windows XP の場合) C:\j2sdk 1.4.2\_16\bin

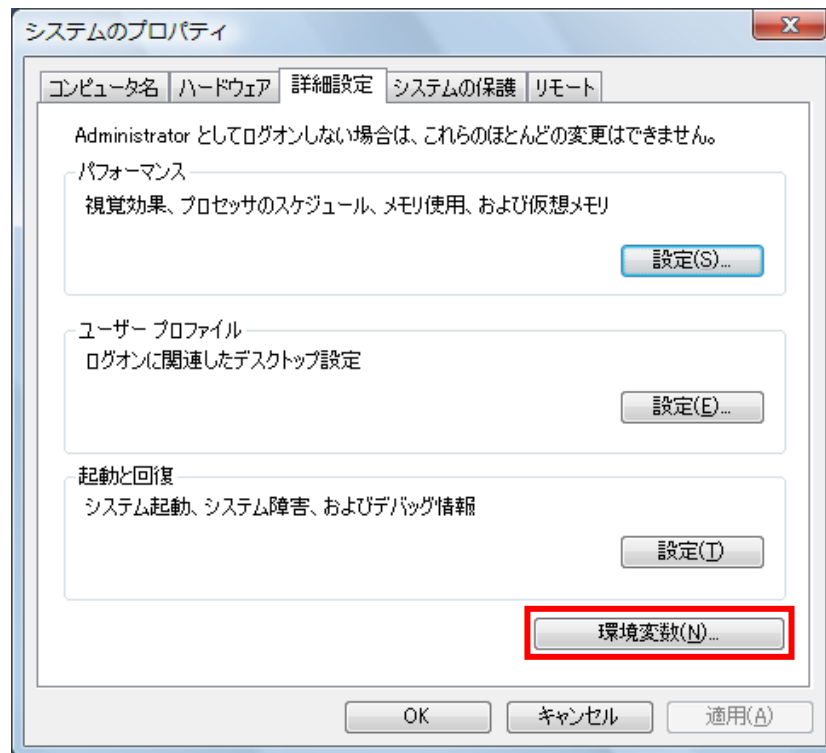
- 1) [マイコンピュータ]—[システムのタスク/設定を変更する]—[システム]をダブルクリック開き、“システムのプロパティ”の詳細設定タブのなかの“環境変数”をクリックする。



- 2) 以降の設定方法については、“Windows2000 の場合”と同様です。

(Windows VISTA 及び、Windows7 の場合) C:\¥j2sdk 1.4.2\_16¥bin

- 1) [スタートメニュー]－[コントロールパネル]－[システム]－[システムの詳細設定]をダブルクリックして開き、詳細設定タブのなかの“環境変数”をクリックする。



- 2) 以降の設定方法については、“Windows2000 の場合”と同様です。

#### 4. 一括転送方式（一括送受信モジュール）本体のインストール

CD-ROM 内の“NAFCO\_EDI\_MODULE.EXE”をダブルクリックしインストーラを起動して下さい。  
インストールの流れは以下の通りです。

（注）

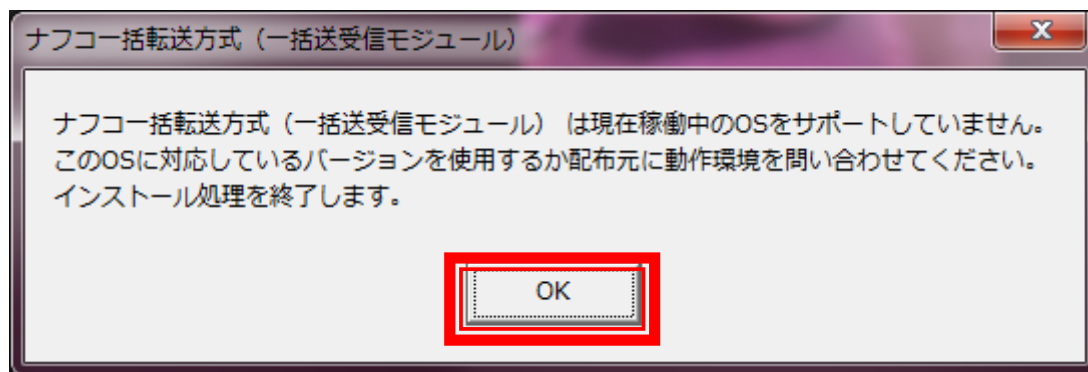
Windows7 のパソコンにインストールされる場合は、CD-ROM 内の

“NAFCO\_EDI\_MODULE.EXE”をパソコン側にコピーし、コピーしたファイルを  
パソコン上でダブルクリックしてインストールして下さい。

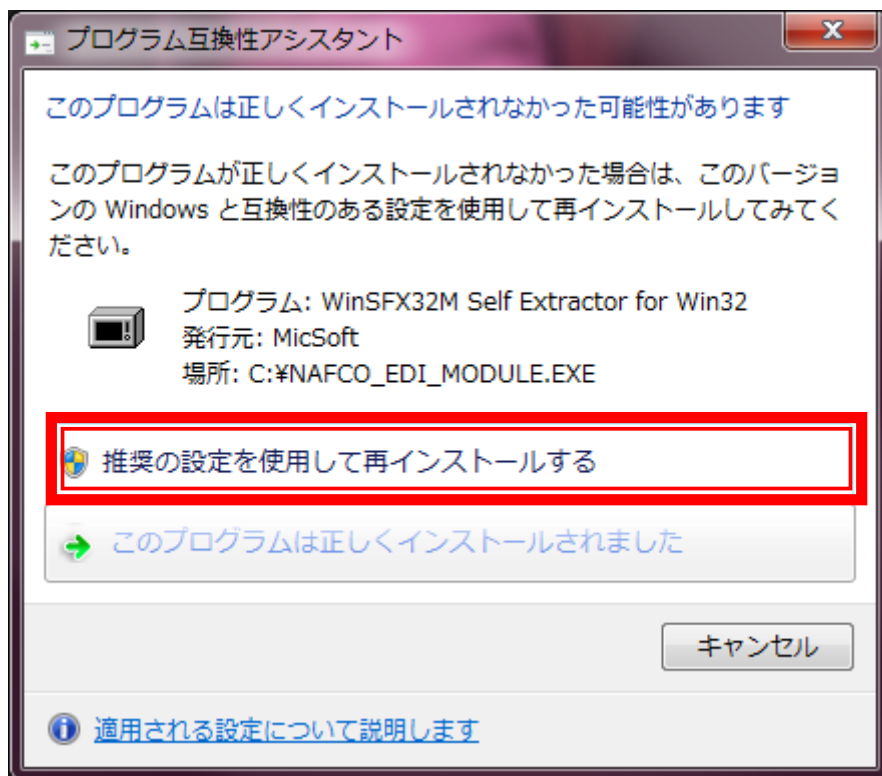
また、下図のエラー画面が出た場合は以下の手順に従って、インストールを行って  
下さい。以下の手順を行うことによって、一括送受信モジュールの動作がおかしく  
なる事はありません。

#### ■インストールエラー画面が表示された場合

- ・OKボタンをクリックして下さい

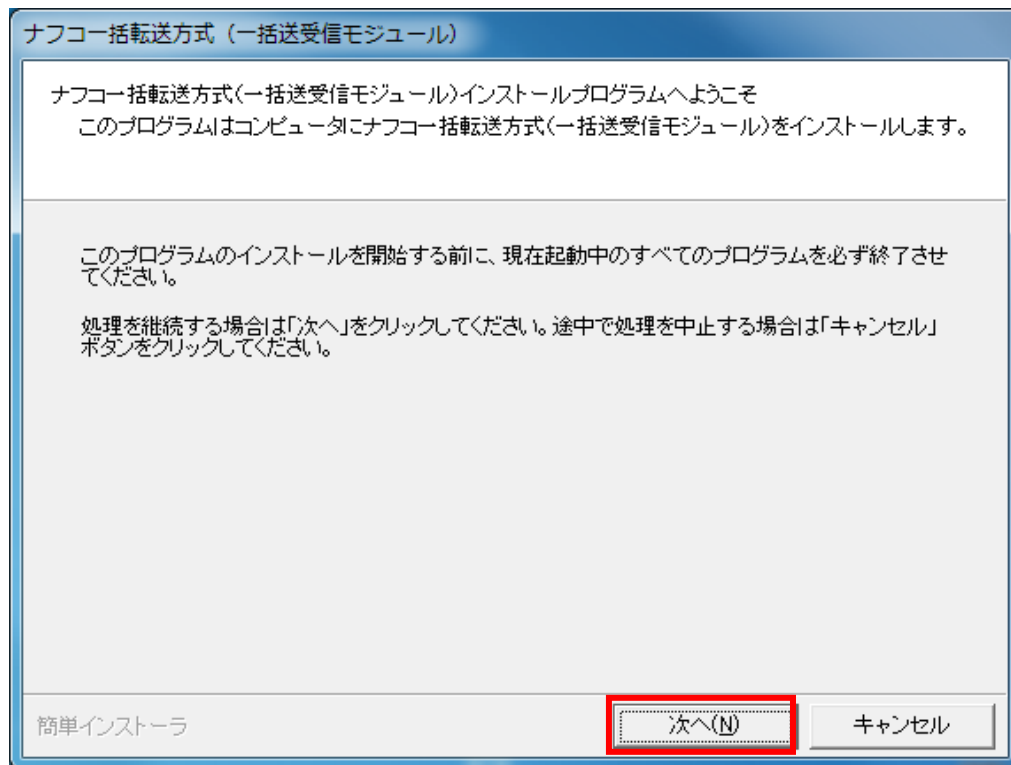


- ・暫くすると、下図の画面が表示されますので、「推奨の設定を使用して再インストールする」をクリックします。

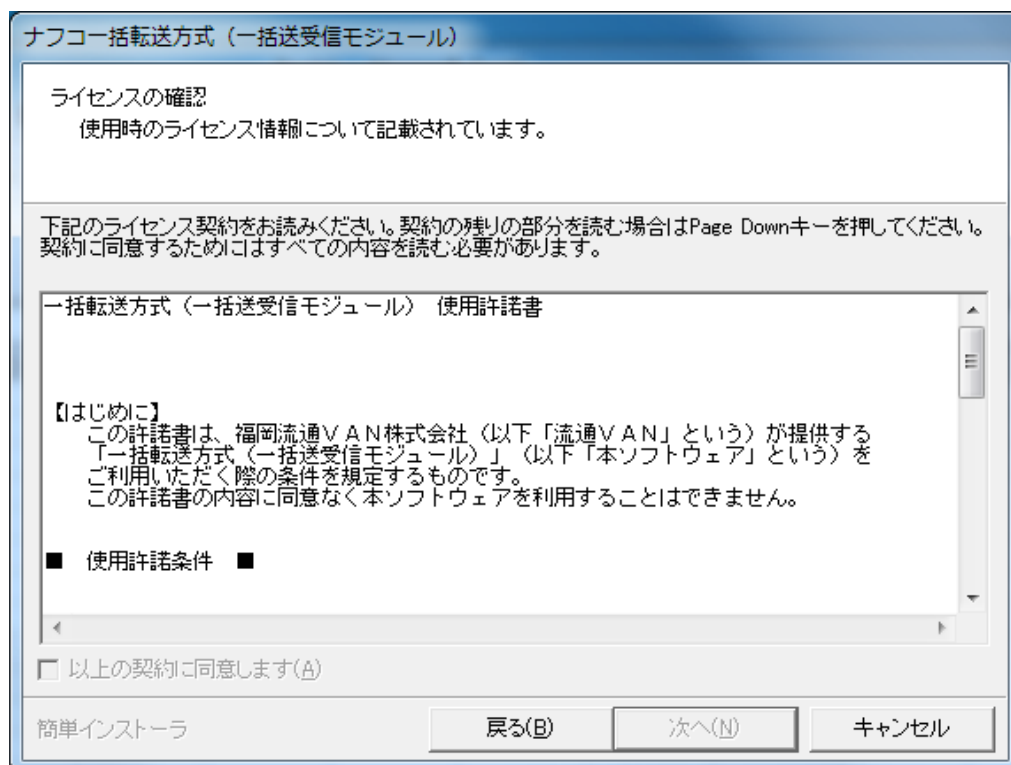


一括送受信モジュールのインストールが始まりますので、以下の手順通りにインストールを進めて下さい。

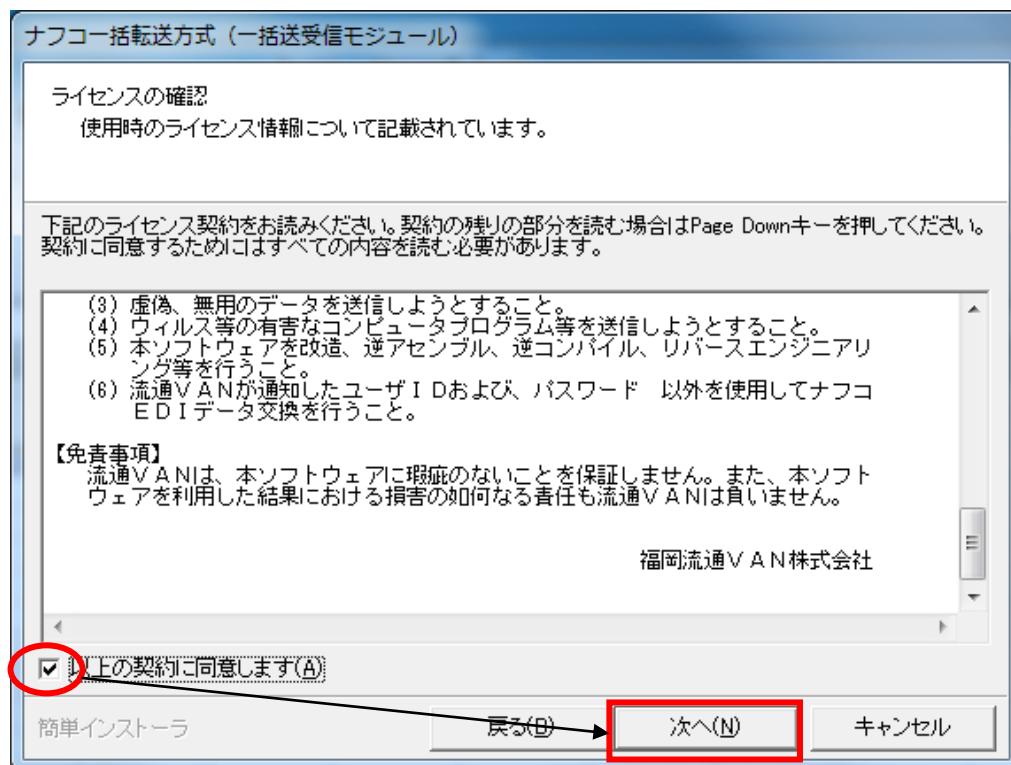
- 1) 次へをクリックして下さい。



- 2) 使用許諾条件を確認して下さい。



- 3) 使用許諾条件を全てお読みになりましたら、“以上の契約に同意します”にチェックし、“次へ”をクリックして下さい。

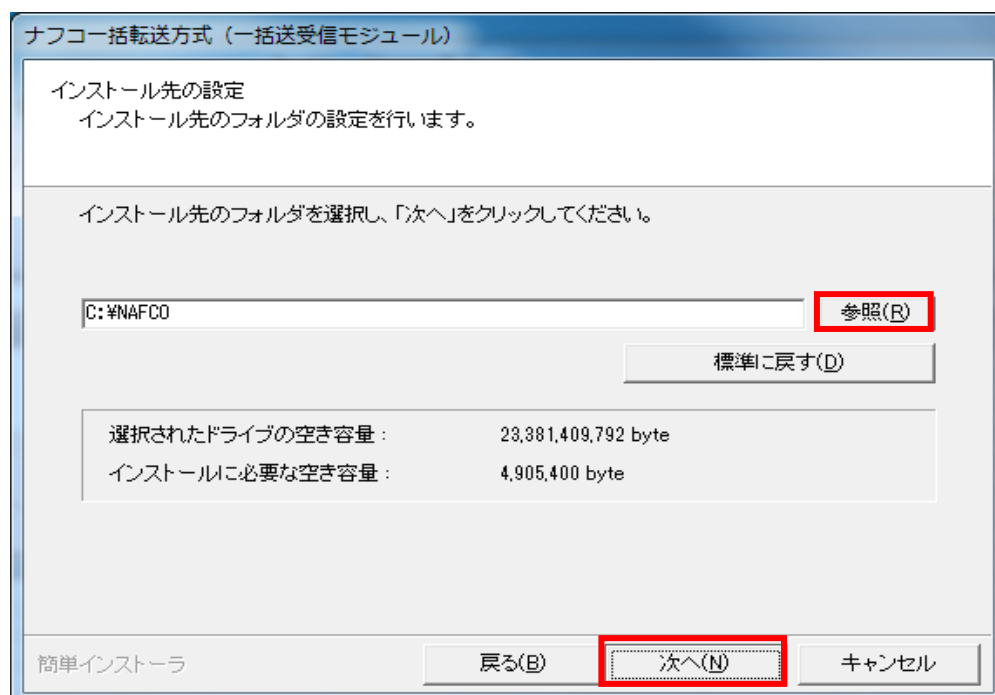


- 4) モジュール本体のインストール先を指定して下さい。デフォルトは以下の通りとなっていますので、変更したい場合は“参照”をクリックし指定して下さい。インストール先が決定しましたら、“次へ”をクリックして下さい。

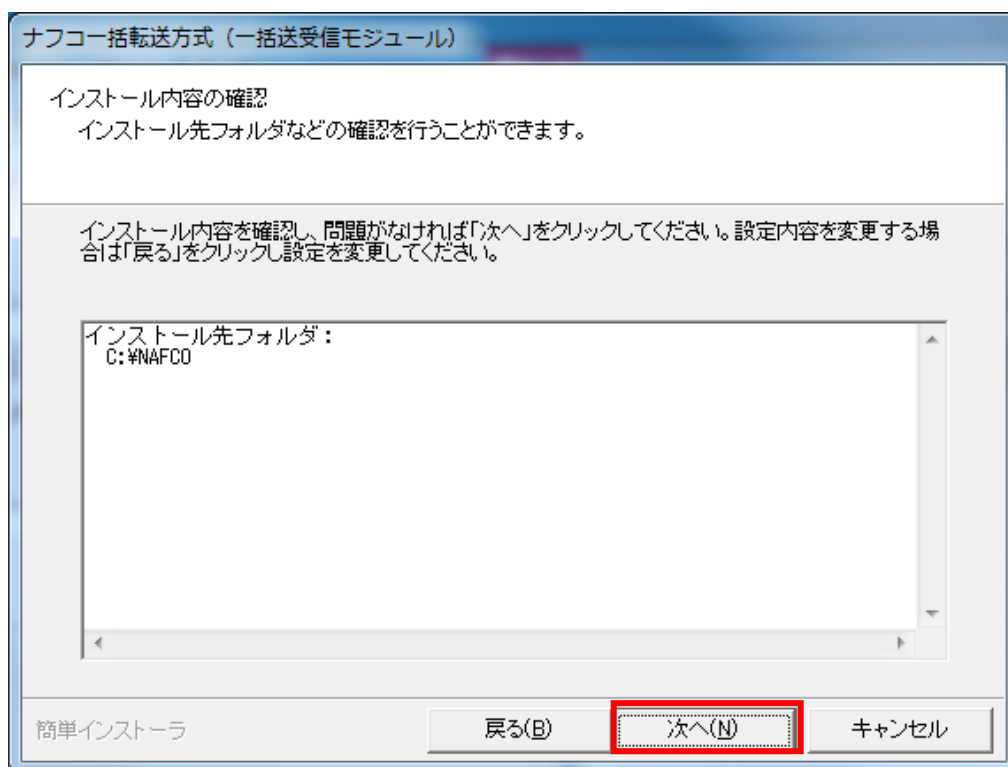
(注)

Windows VISTA 及び Windows7 をご使用になられるお取引様については、インストール先に「C:¥Program Files」、「C:¥Program Files (x86)」、「C:¥Windows」、「C:¥Windows.old」を指定しないで下さい。

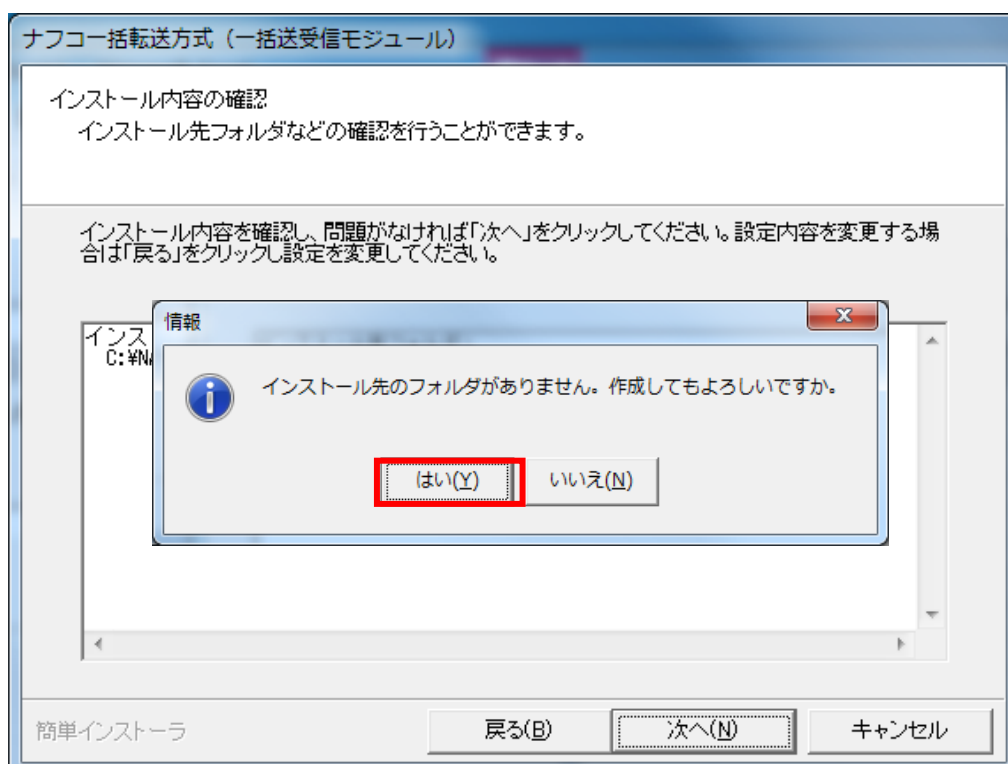
(動作しない可能性があります)



- 5) インストール先フォルダを確認して下さい。よろしければ、“次へ”をクリックして下さい。変更したい場合は、“戻る”をクリックしインストール先フォルダを変更して下さい。

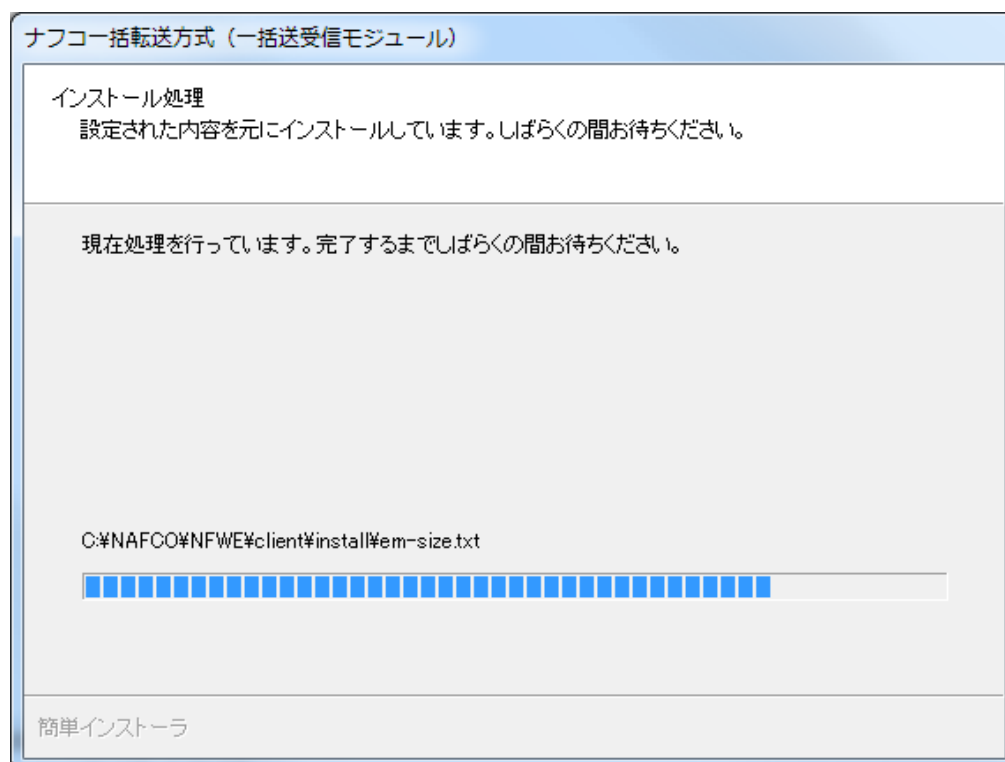


- 6) インストール先フォルダが存在しない場合、作成を促すメッセージが表示されますので、“はい”をクリックして下さい。

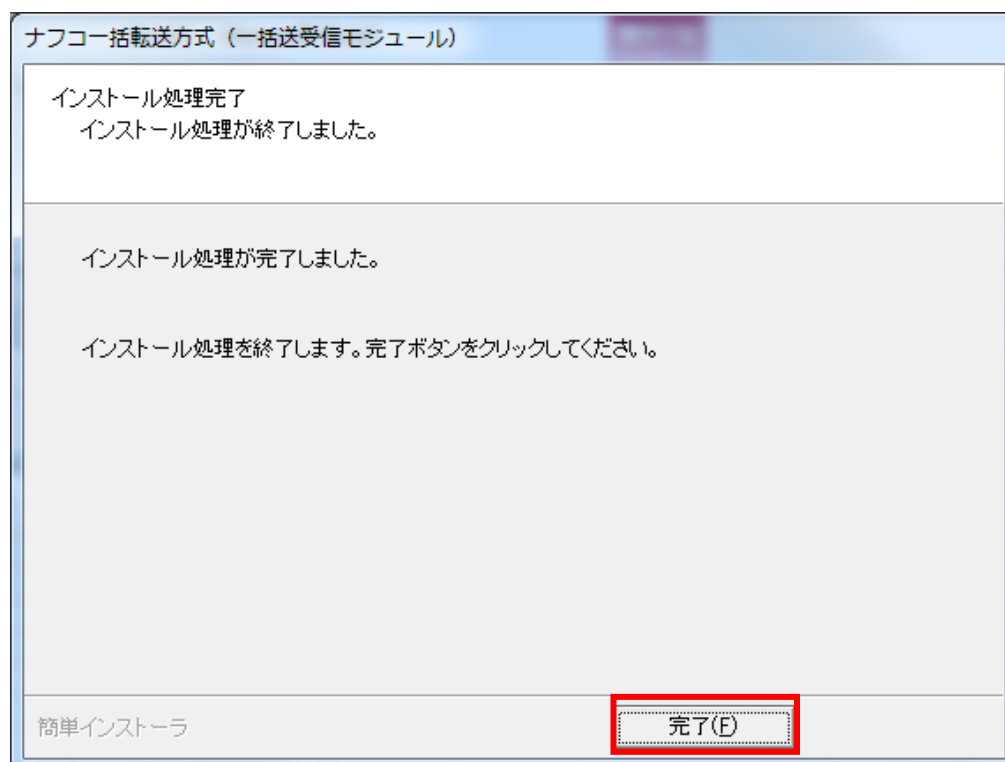




- 7) 一括転送方式（一括送受信モジュール）が指定されたフォルダにコピーされます。



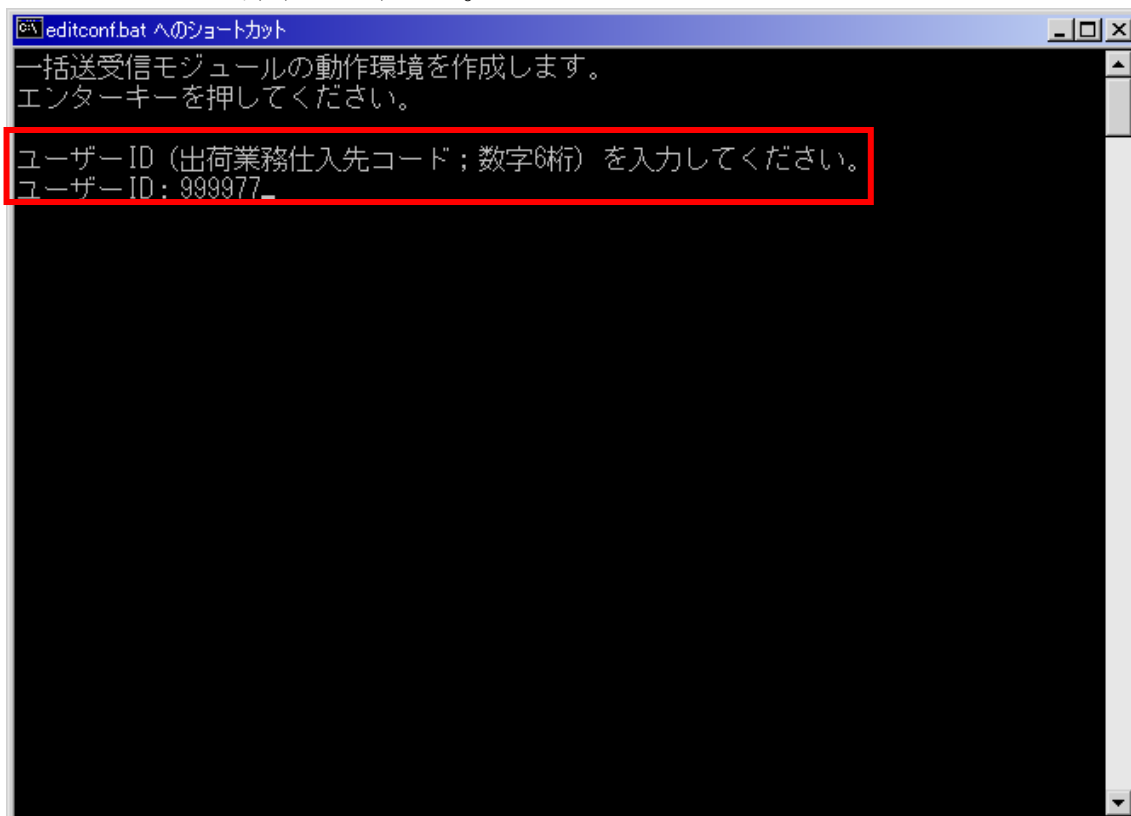
- 8) 以下の画面が表示されますと、一括転送方式（一括送受信モジュール）のコピーが完了します。“完了”ボタンをクリックすると、動作環境を設定する画面が表示されます。



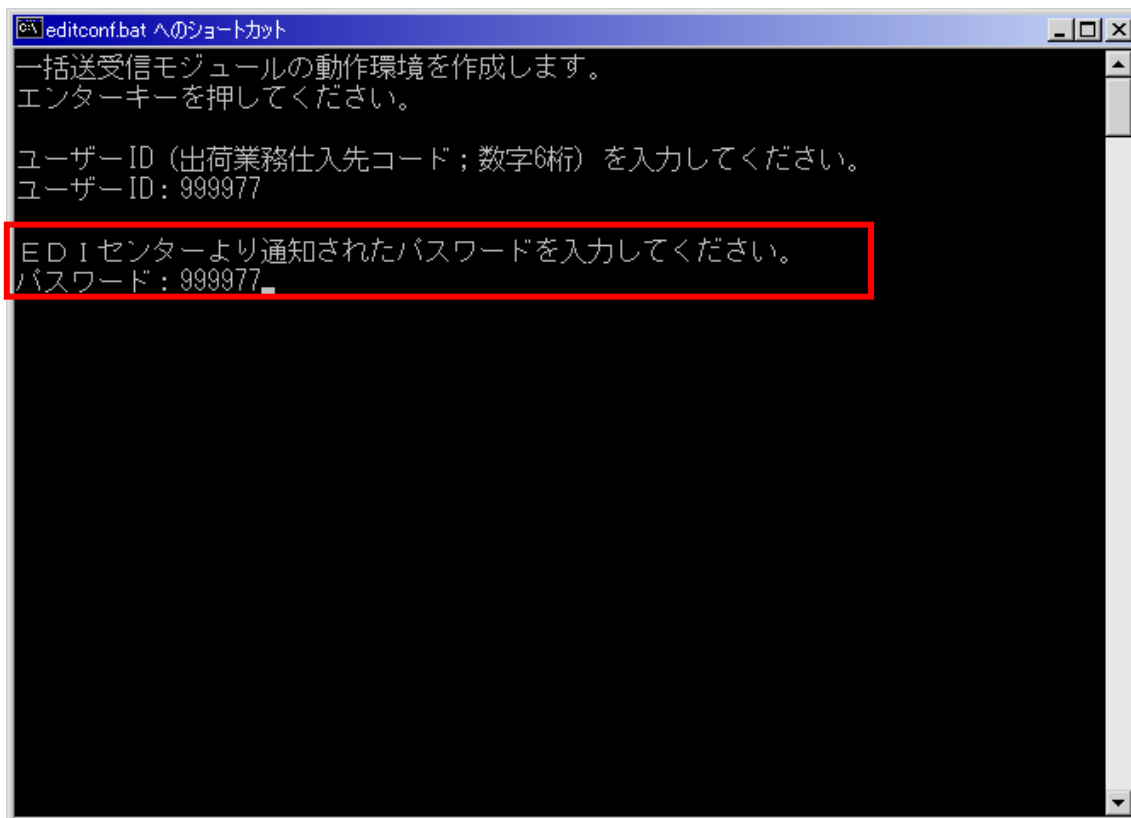
- 9) 一括転送方式（一括送受信モジュール）のお取引先様ご利用パソコンでの動作環境を設定します。エンターキーを押下して下さい。



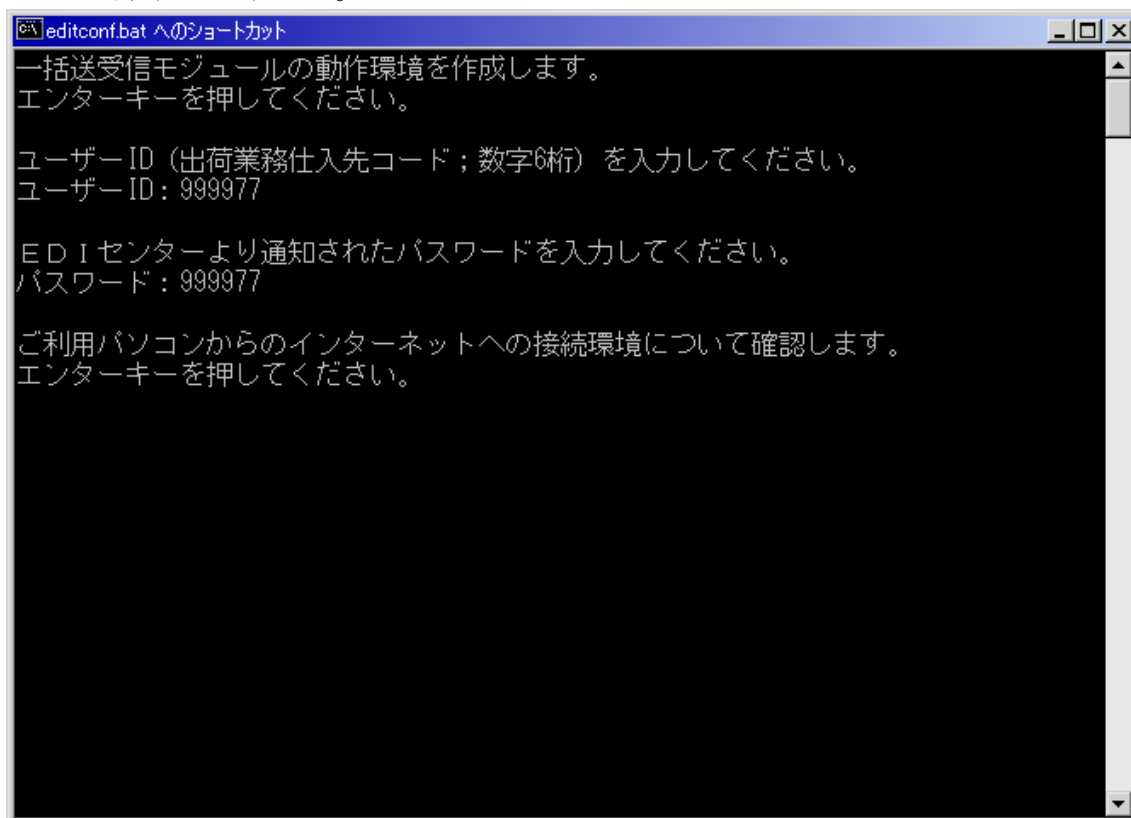
- 10) 最初にユーザーID（出荷業務仕入先コード；数字6桁）を入力し、エンターキーを押下して下さい。



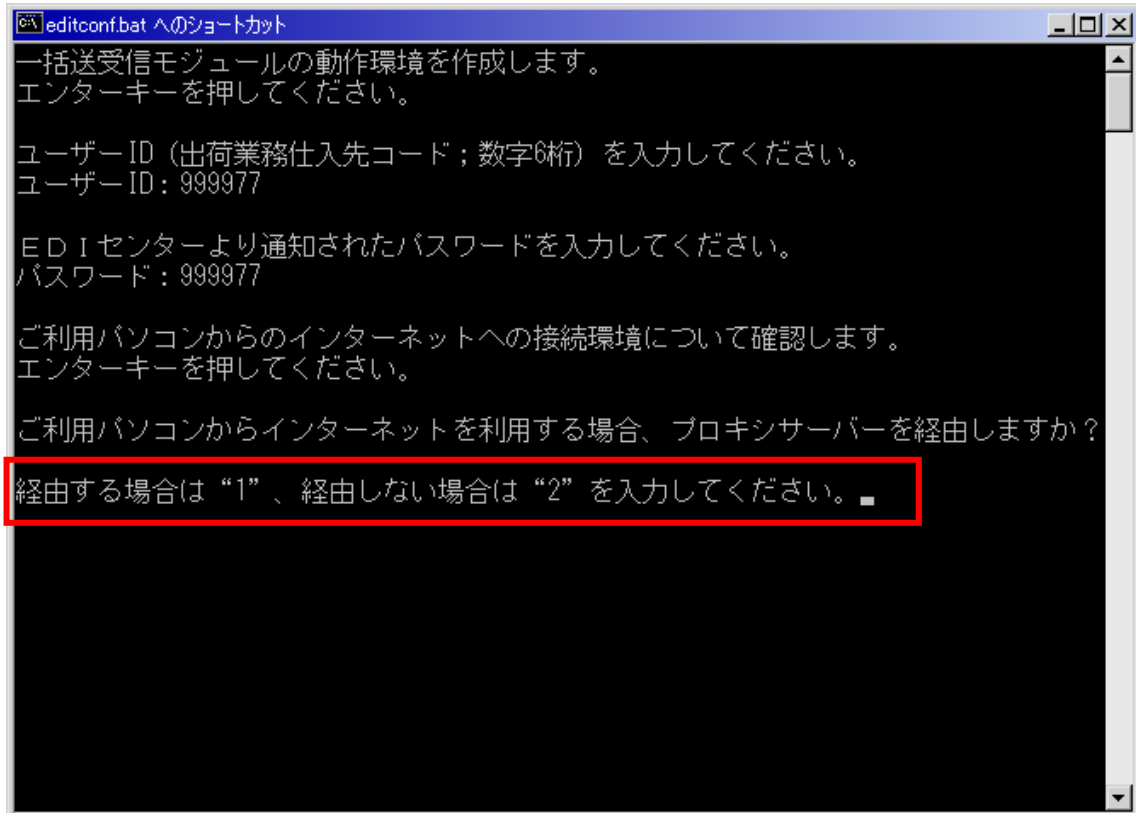
- 11) EDI センターより通知されたパスワードを入力し、エンターキーを押下して下さい。



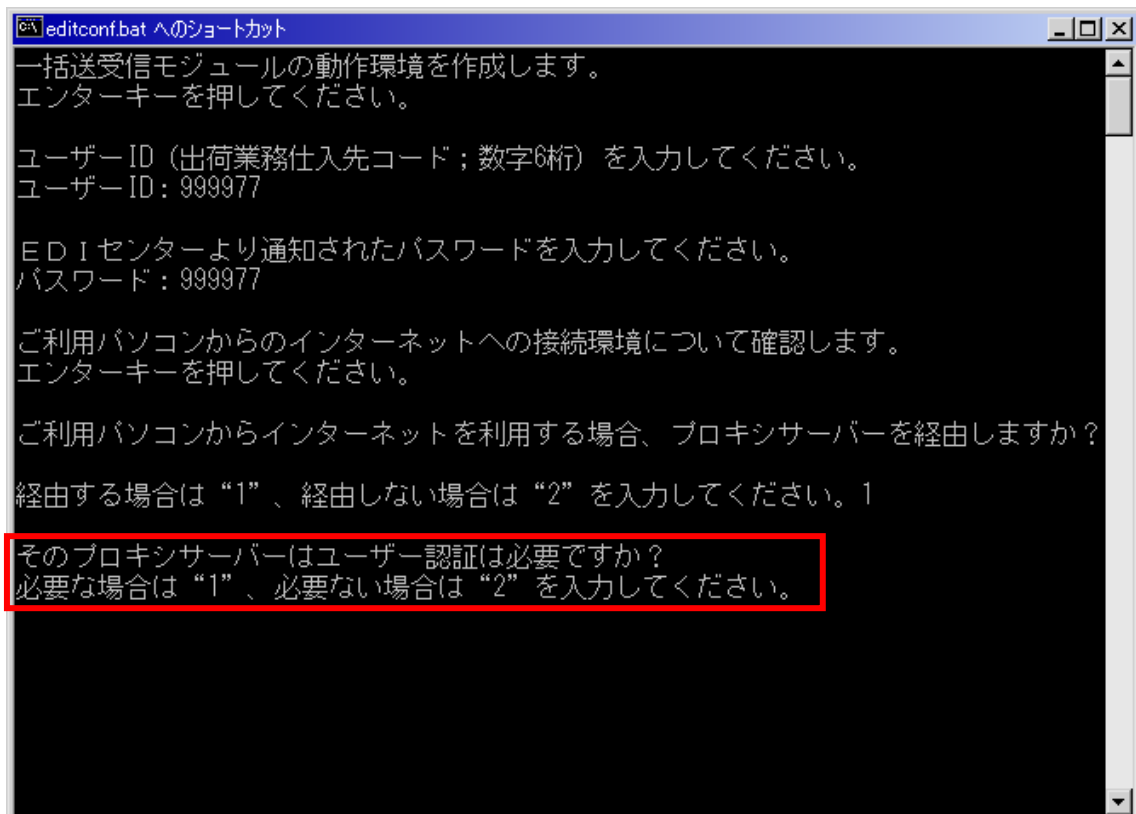
- 12) 次に、ご利用パソコンからのインターネット接続環境の確認を行います。エンターキーを押下して下さい。



- 13) インターネットへ接続する場合、プロキシサーバーを経由する／しないを入力して下さい。

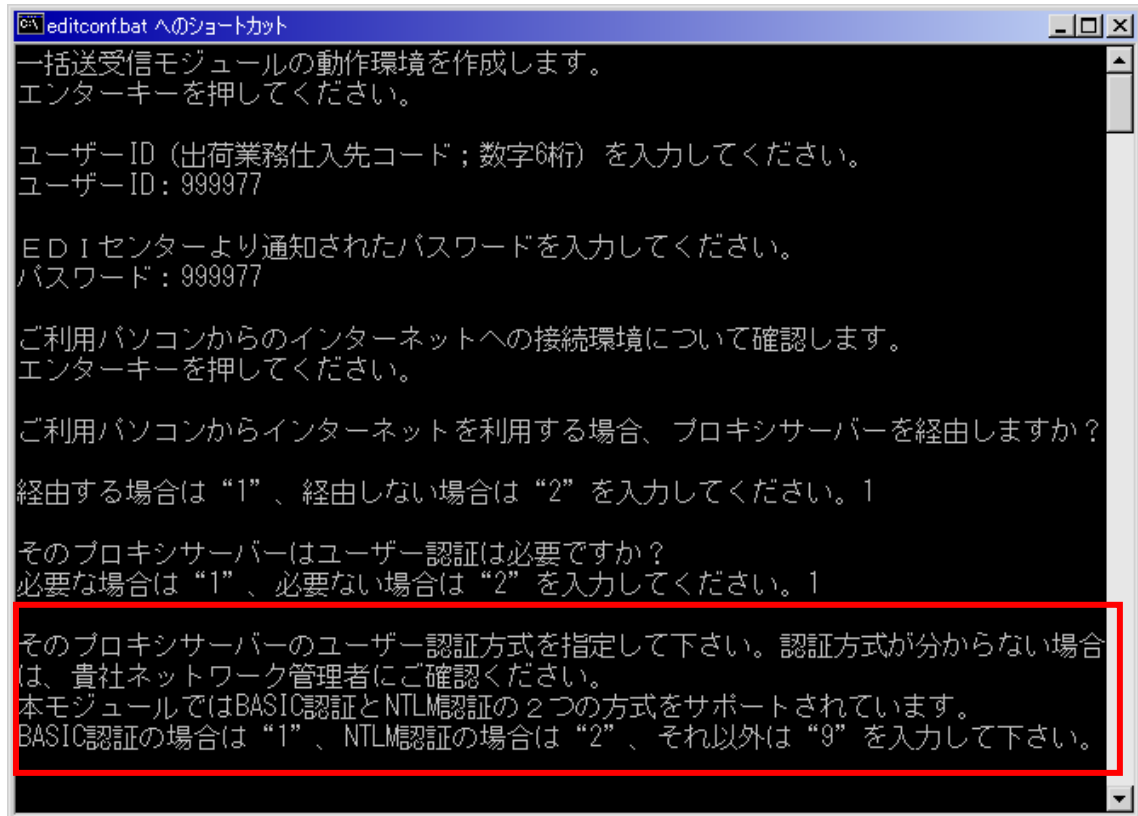


- 14) (13)にて“1：経由する”を指定した場合、そのプロキシサーバーで認証が必要かどうかを入力して下さい。

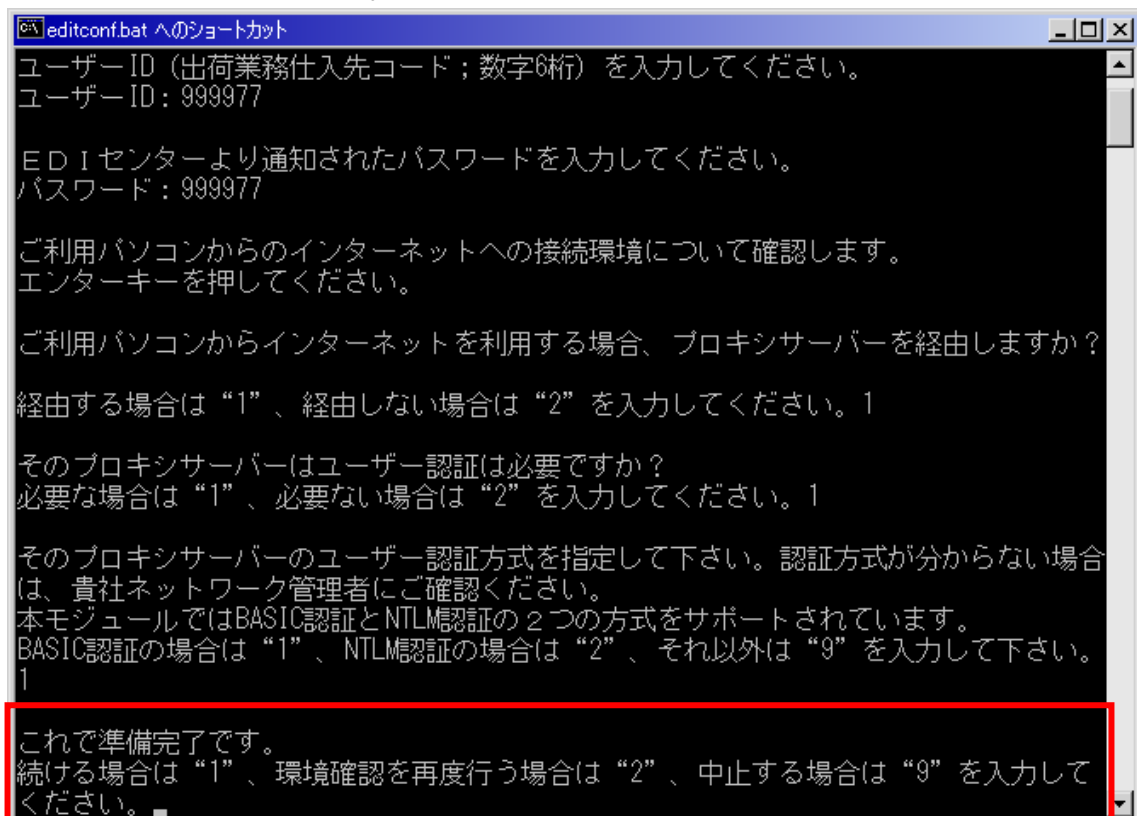


- 15) (14)にて“1：必要”を指定した場合、プロキシサーバーの認証方式を入力して下さい。

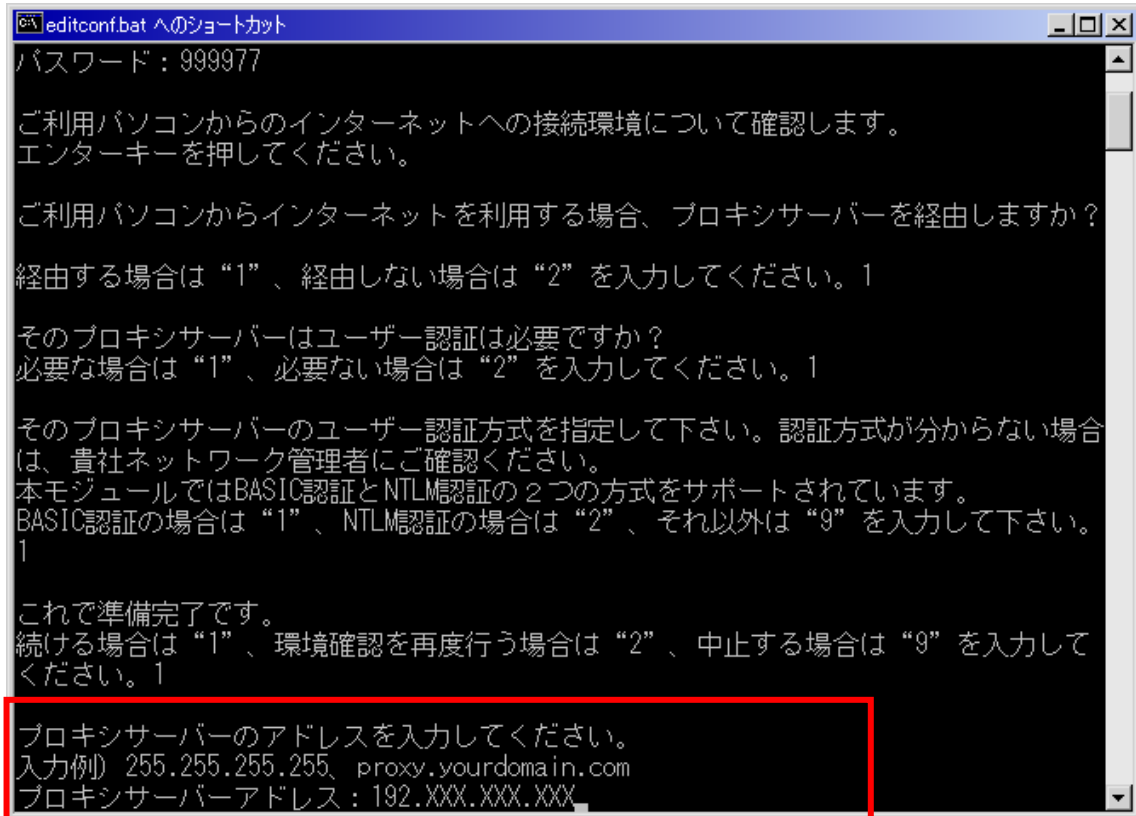
※認証方式が“1：BASIC”または“2：NTLM”以外の場合はサポート対象外です。



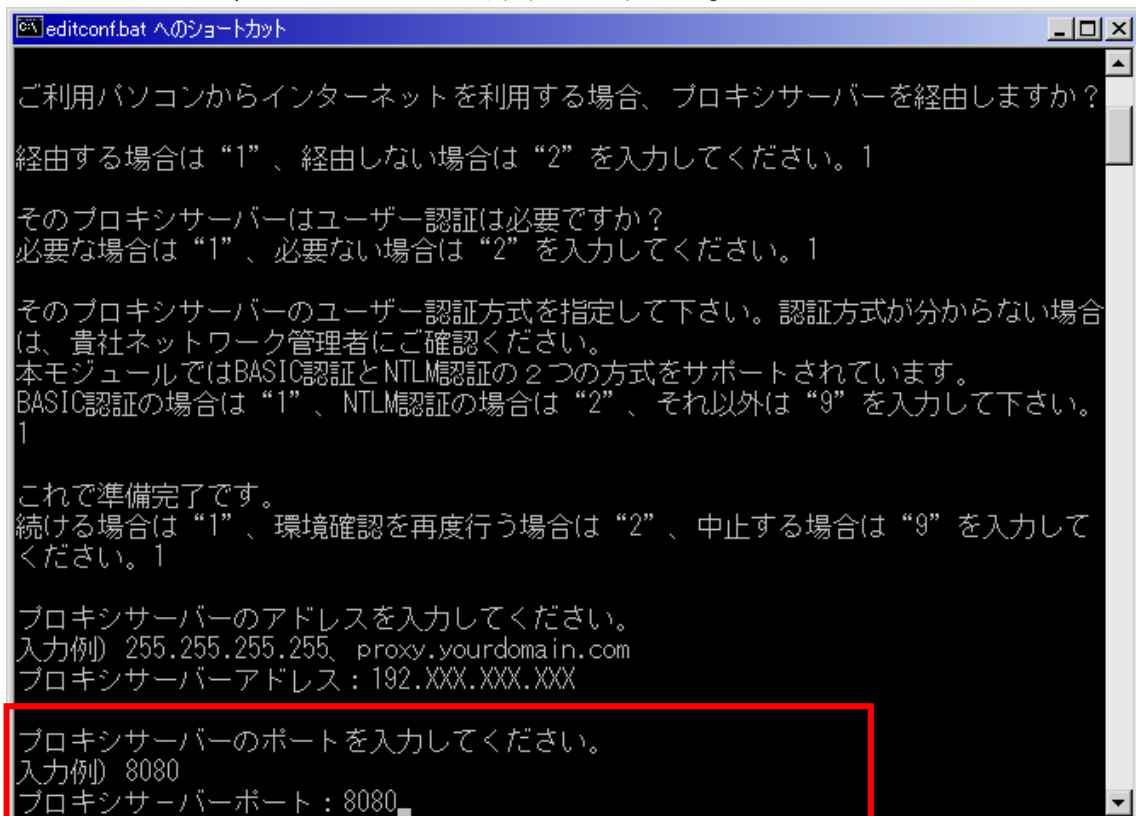
- 16) これでインターネット接続環境確認が終わりました。続ける／再確認／中止の何れかを入力して下さい。



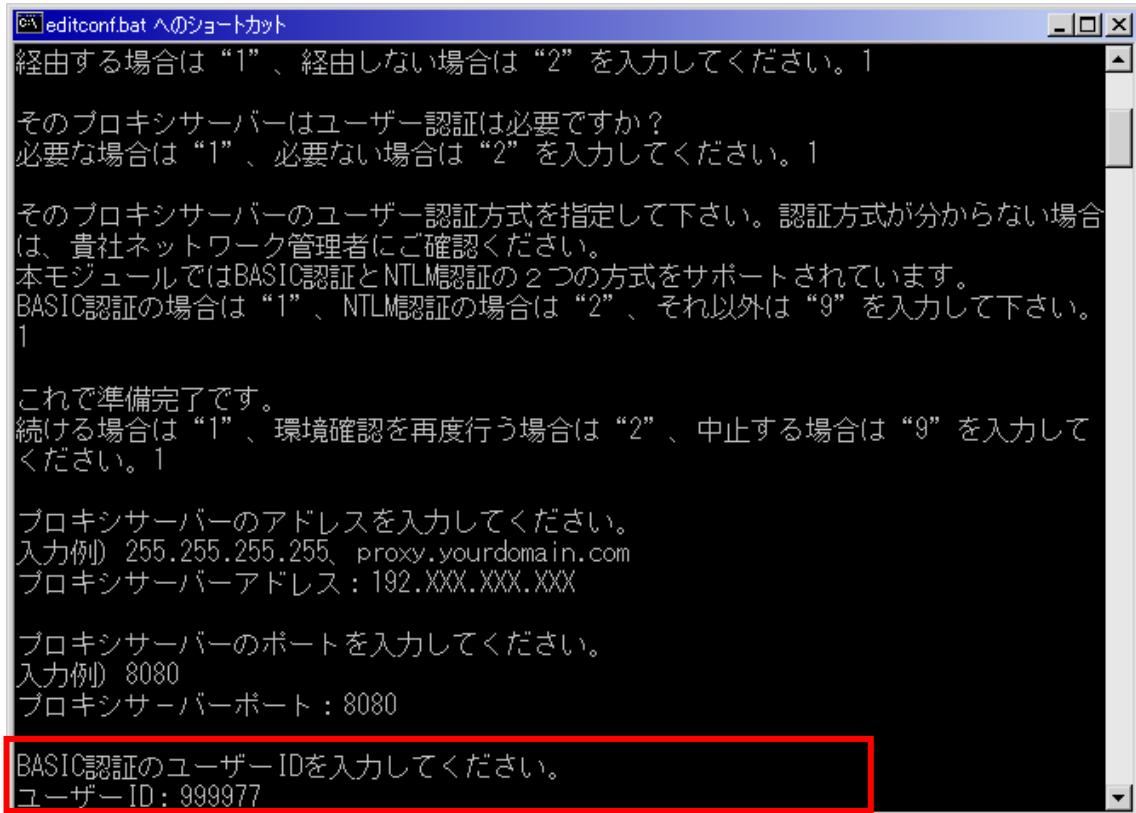
- 17) (16)で“1：続ける”を指定し、(13)にてプロキシサーバーを“1：経由する”を指定した場合、プロキシサーバーのアドレスを入力し、エンターキーを押下して下さい。



- 18) (13)にてプロキシサーバーを“1：経由する”を指定した場合、プロキシサーバーのポートを入力し、エンターキーを押下して下さい。



- 19) (14)にて“1：必要”を指定した場合、プロキシ認証時のユーザーIDを入力し、エンターキーを押下して下さい。



```
editconf.bat へのショートカット
経由する場合は“1”、経由しない場合は“2”を入力してください。1

そのプロキシサーバーはユーザー認証は必要ですか？
必要な場合は“1”、必要ない場合は“2”を入力してください。1

そのプロキシサーバーのユーザー認証方式を指定して下さい。認証方式が分からない場合は、貴社ネットワーク管理者にご確認ください。
本モジュールではBASIC認証とNTLM認証の2つの方式をサポートされています。
BASIC認証の場合は“1”、NTLM認証の場合は“2”、それ以外は“9”を入力して下さい。1

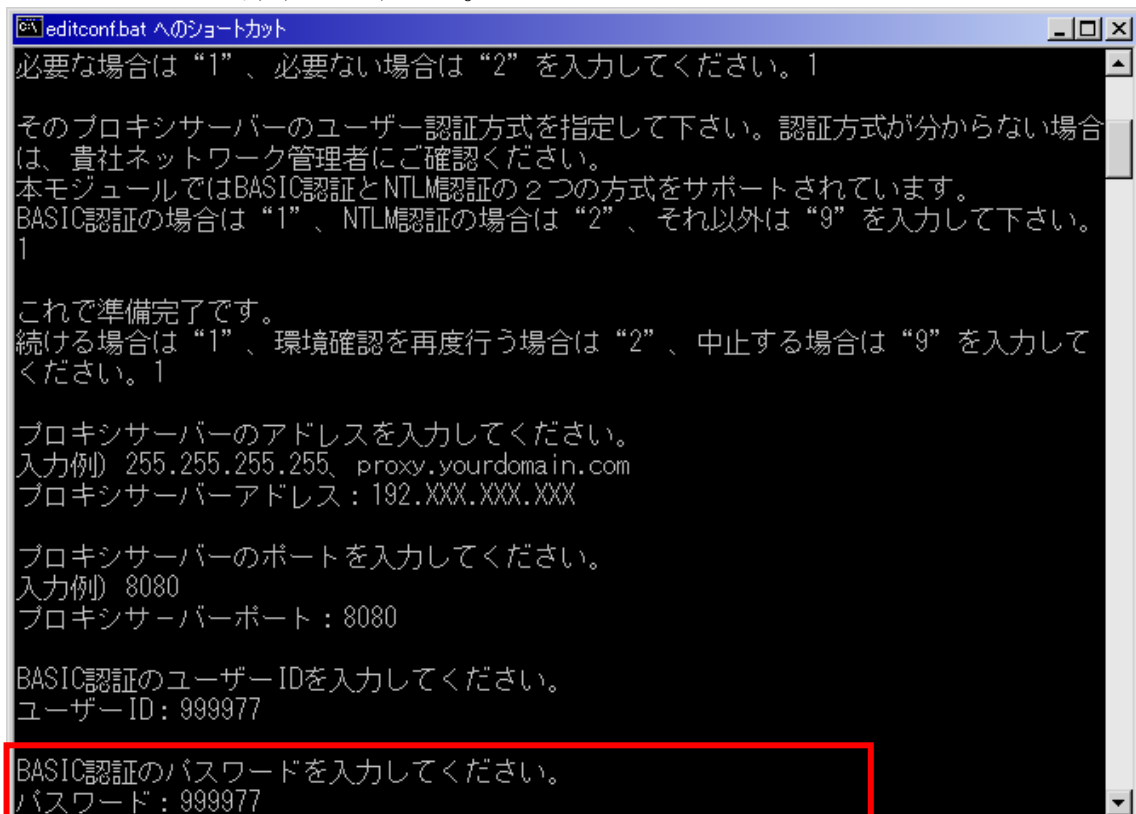
これで準備完了です。
続ける場合は“1”、環境確認を再度行う場合は“2”、中止する場合は“9”を入力して下さい。1

プロキシサーバーのアドレスを入力してください。
入力例) 255.255.255.255、 proxy.yourdomain.com
プロキシサーバーアドレス：192.XXX.XXX.XXX

プロキシサーバーのポートを入力してください。
入力例) 8080
プロキシサーバーポート：8080

BASIC認証のユーザー IDを入力してください。
ユーザー ID: 999977
```

- 20) (14)にて“1：必要”を指定した場合、プロキシ認証時のパスワードを入力し、エンターキーを押下して下さい。



```
editconf.bat へのショートカット
必要な場合は“1”、必要ない場合は“2”を入力してください。1

そのプロキシサーバーのユーザー認証方式を指定して下さい。認証方式が分からない場合は、貴社ネットワーク管理者にご確認ください。
本モジュールではBASIC認証とNTLM認証の2つの方式をサポートされています。
BASIC認証の場合は“1”、NTLM認証の場合は“2”、それ以外は“9”を入力して下さい。1

これで準備完了です。
続ける場合は“1”、環境確認を再度行う場合は“2”、中止する場合は“9”を入力して下さい。1

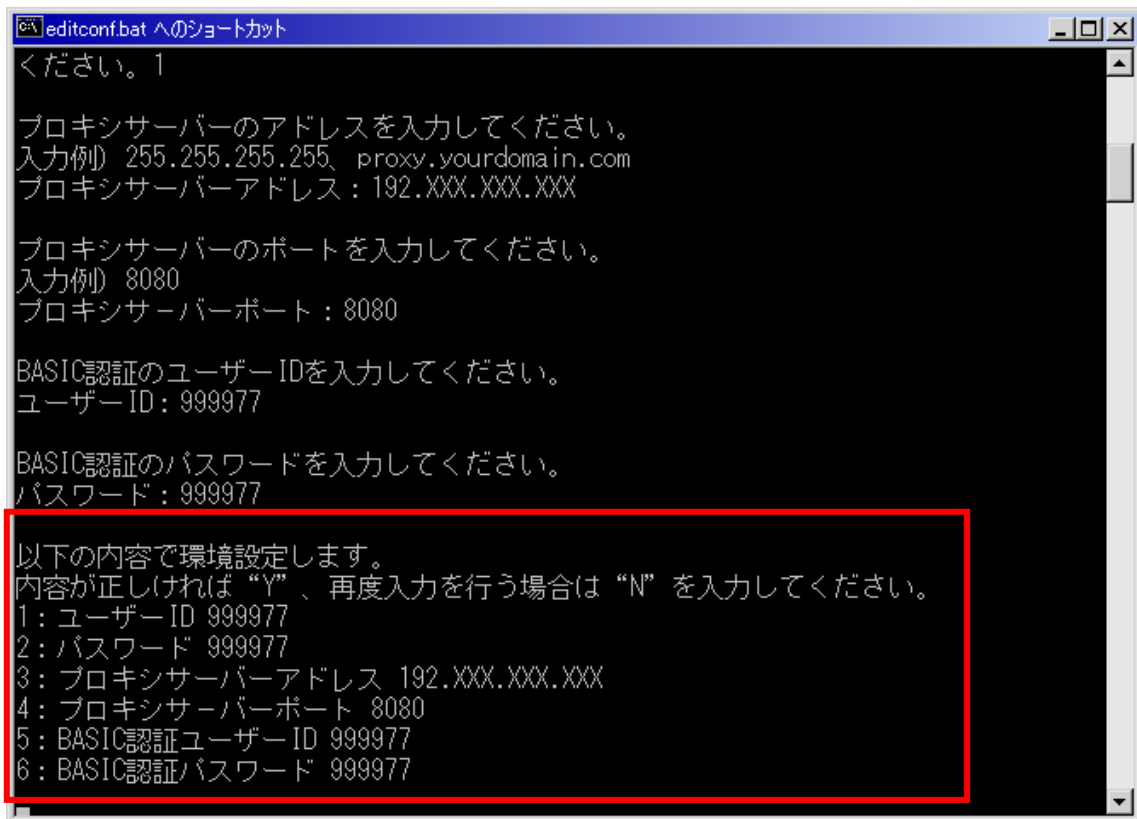
プロキシサーバーのアドレスを入力してください。
入力例) 255.255.255.255、 proxy.yourdomain.com
プロキシサーバーアドレス：192.XXX.XXX.XXX

プロキシサーバーのポートを入力してください。
入力例) 8080
プロキシサーバーポート：8080

BASIC認証のユーザー IDを入力してください。
ユーザー ID: 999977

BASIC認証のパスワードを入力してください。
パスワード: 999977
```

- 20) これで全ての入力完了しました。入力した内容が全て表示されますので内容を確認し、間違いなければ“Y”を入力し、エンターキーを押下して下さい。入力内容に間違いがあれば“N”を入力し、エンターキーを押下して、最初から入力し直して下さい。



```
editconf.bat へのショートカット
ください。1

プロキシサーバーのアドレスを入力してください。
入力例) 255.255.255.255、 proxy.yourdomain.com
プロキシサーバーアドレス : 192.XXX.XXX.XXX

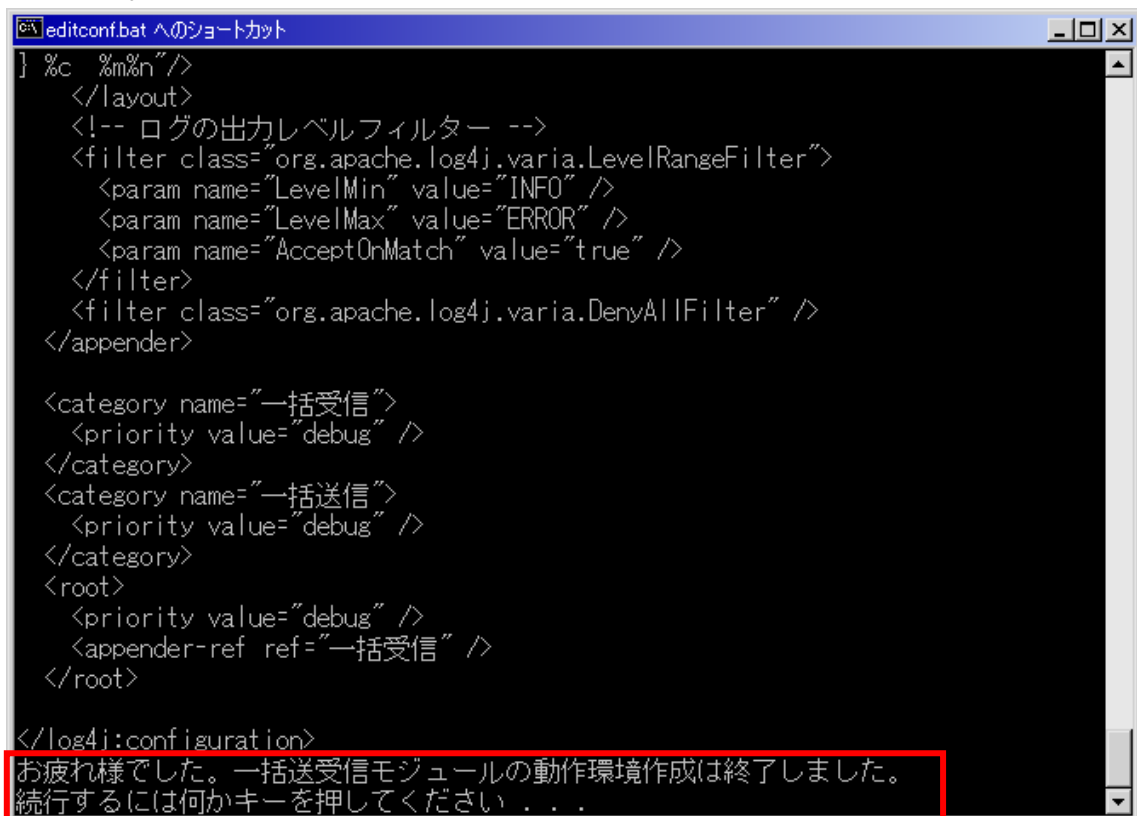
プロキシサーバーのポートを入力してください。
入力例) 8080
プロキシサーバーポート : 8080

BASIC認証のユーザー IDを入力してください。
ユーザー ID : 999977

BASIC認証のパスワードを入力してください。
パスワード : 999977

以下の内容で環境設定します。
内容が正しければ“Y”、再度入力を行う場合は“N”を入力してください。
1: ユーザー ID 999977
2: パスワード 999977
3: プロキシサーバーアドレス 192.XXX.XXX.XXX
4: プロキシサーバーポート 8080
5: BASIC認証ユーザー ID 999977
6: BASIC認証パスワード 999977
```

- 21) 以下の文章が表示されたらインストール完了です。エンターキーを押下して終了して下さい。



```
editconf.bat へのショートカット
} %c %m%n"/>
</layout>
<!-- ログの出力レベルフィルター -->
<filter class="org.apache.log4j.varia.LevelRangeFilter">
  <param name="LevelMin" value="INFO" />
  <param name="LevelMax" value="ERROR" />
  <param name="AcceptOnMatch" value="true" />
</filter>
<filter class="org.apache.log4j.varia.DenyAllFilter" />
</appender>

<category name="一括受信">
  <priority value="debug" />
</category>
<category name="一括送信">
  <priority value="debug" />
</category>
<root>
  <priority value="debug" />
  <appender-ref ref="一括受信" />
</root>

</log4j:configuration>

お疲れ様でした。一括送受信モジュールの動作環境作成は終了しました。
続行するには何かキーを押してください...
```



(注)

Windows98 をご利用のお取引先様は、一括転送方式（一括送受信モジュール）インストール後、モジュール起動バッチファイルへ JavaRuntime インストール先（ドライブ名¥フォルダ名）のコマンドの追加（“3. 環境変数（Path）の設定”で Path に追加したものと同じ）が必要です。

NFWE¥client¥install フォルダ配下にある recevie.bat、send.bat 内のコマンドとして定義します。メモ帳等のテキスト編集ツールにて以下のコマンドを追加します。

（追加コマンド／例）

```
set path=C:¥j2sdk 1.4.2_16¥bin;
```

（追加イメージ）



```
@echo off
set path=C:¥j2sdk 1.4.2_10¥bin;
set classpath=client.jar;
set classpath=%classpath%;commons-beanutils.jar;
set classpath=%classpath%;commons-codec-1.3.jar;
set classpath=%classpath%;commons-collections.jar;
set classpath=%classpath%;commons-digester.jar;
set classpath=%classpath%;commons-httpclient-3.0.jar;
set classpath=%classpath%;commons-logging.jar;
set classpath=%classpath%;log4j-1.2.11.jar;
set classpath=%classpath%;org.eclipse.swt.win32.win32.x86_3.1.1.jar;

echo 引数 %1 %2 %3 %4 %5

java -Djavax.net.ssl.trustStore="C:/NFWE/client/install/.keystore" jp.co.nafco.client.ClientReceive %1 %2 %3 %4 %5
```

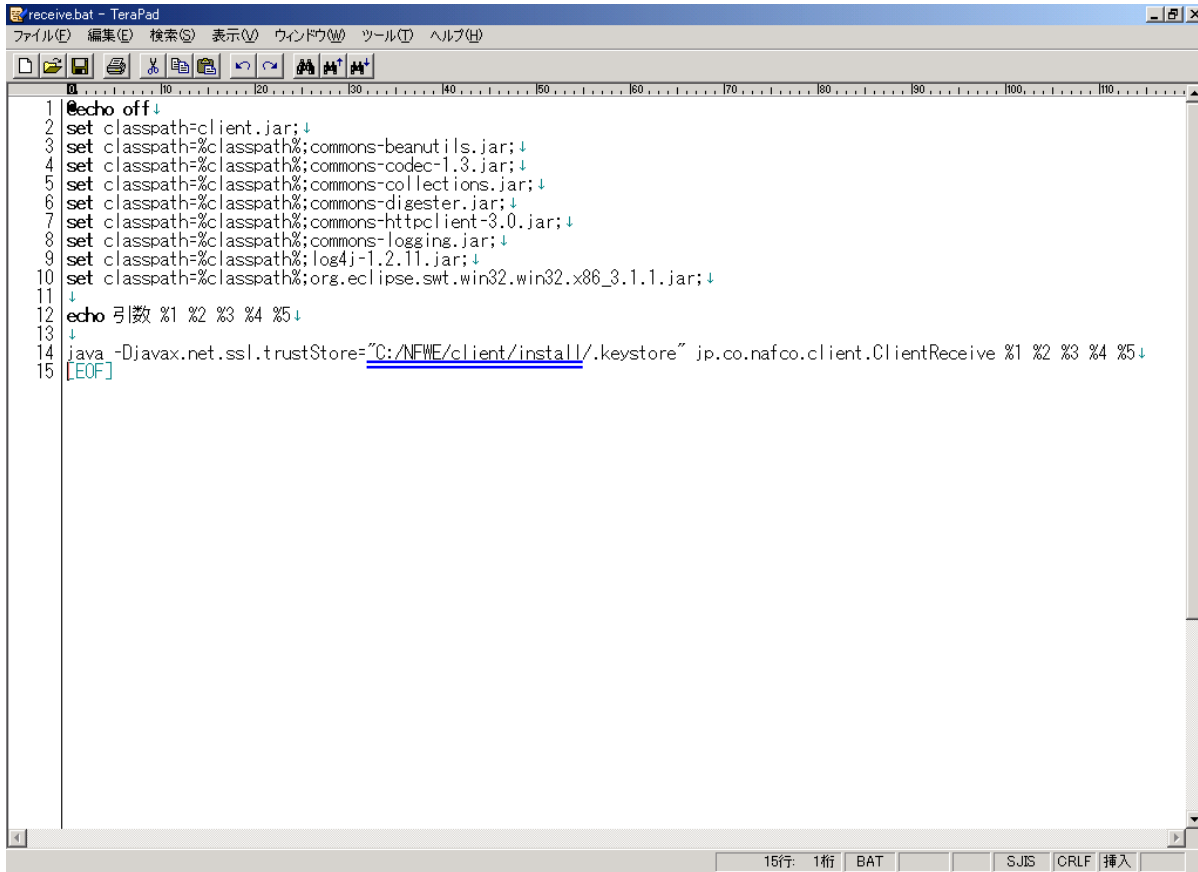
【動作環境の再設定を行う場合】

インストーラ（NAFCO\_EDI\_MODULE.EXE）を再度起動するか、インストール後にできている ¥NFWE¥client¥install 配下にあります “editconf\_update.bat へのショートカット” を起動し再度設定を行って下さい。

## 5. モジュール起動バッチファイル確認

EDI センターと送受信を行う場合の、バッチファイル (receive.bat, send.bat) の以下下線部分のパス内容を確認して下さい。初期設定はインストール先フォルダとなっています。インストール後フォルダ構成やフォルダ名を変更された場合は、“動作環境の再設定”を行って下さい。

(receive.bat)



```
1 @echo off
2 set classpath=client.jar;
3 set classpath=%classpath%;commons-beanutils.jar;
4 set classpath=%classpath%;commons-codec-1.3.jar;
5 set classpath=%classpath%;commons-collections.jar;
6 set classpath=%classpath%;commons-digester.jar;
7 set classpath=%classpath%;commons-httpclient-3.0.jar;
8 set classpath=%classpath%;commons-logging.jar;
9 set classpath=%classpath%;log4j-1.2.11.jar;
10 set classpath=%classpath%;org.eclipse.swt.win32.win32.x86_3.1.1.jar;
11
12 echo 引数 %1 %2 %3 %4 %5
13
14 java -Djavax.net.ssl.trustStore="C:/NFWC/client/install/.keystore" jp.co.nafco.client.ClientReceive %1 %2 %3 %4 %5
15 [EOF]
```

### 【動作環境の再設定を行う場合】

インストール後にできている¥NFWC¥client¥install 配下にあります“editconf\_update.bat へのショートカット”を起動し再度設定を行って下さい。

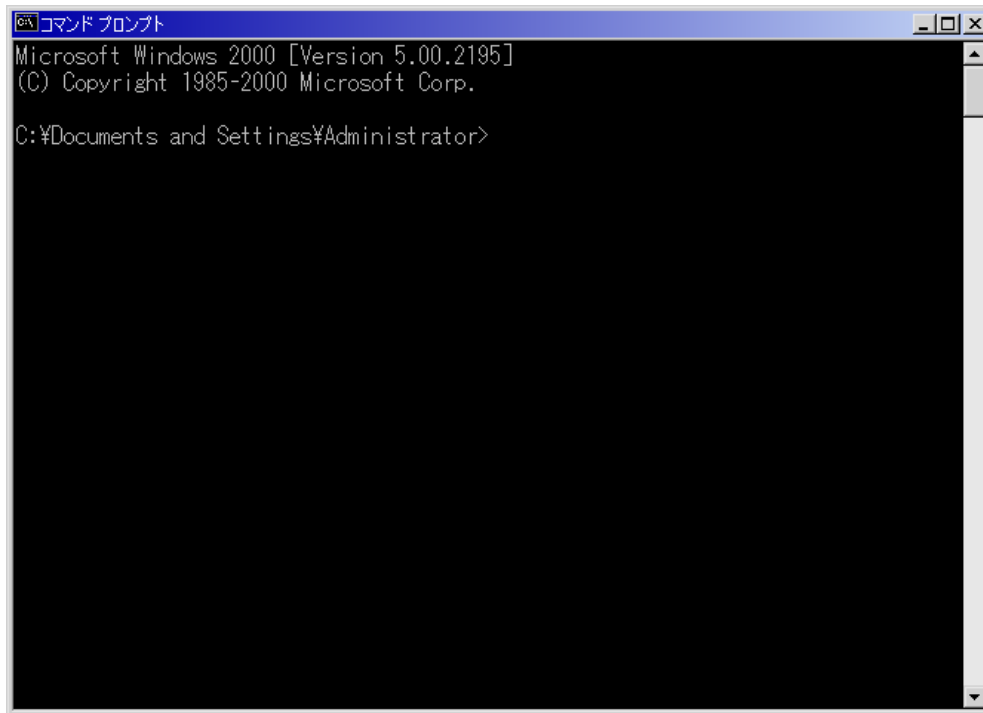
## 6. モジュール動作確認

設定した動作環境に問題がないか、一括転送方式（一括送受信モジュール）の動作確認を行います。

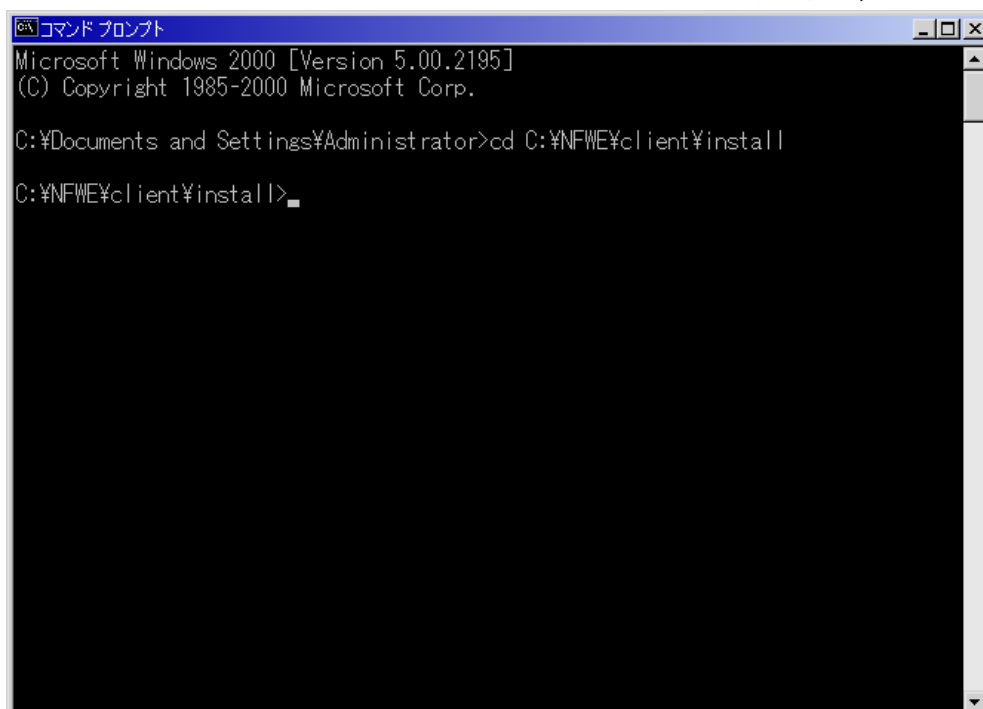
※ここではCドライブにインストールしたものとしします。

(Windows2000 の場合)

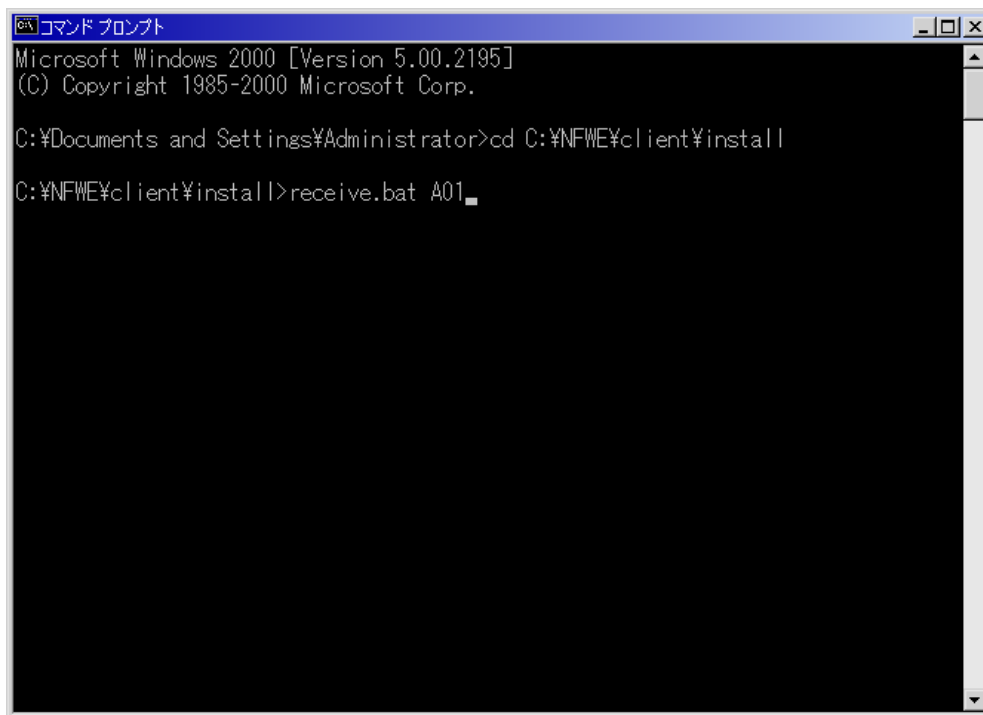
- 1). [スタート]－[プログラム]－[アクセサリ]のコマンドプロンプトを選択します。



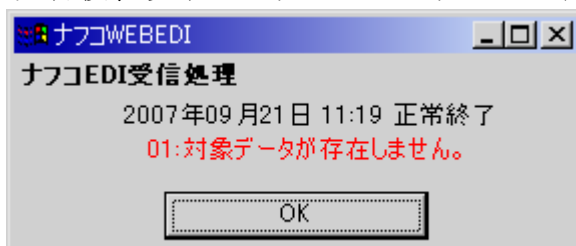
- 2). 起動ファイル (receive.bat) が格納されている “¥NFW¥client¥install” フォルダへ CD (チェンジディレクトリ) コマンドにてルートフォルダへ移動します。  
コマンドラインに “cd△C:¥NFW¥client¥install” を入力し、Enter キーを押下します。



3). コマンドラインに“receive.bat△A01”を入力し、Enter キーを押下します。



4). 実行後、以下のメッセージボックスが表示されます。



(Windows98 の場合)

- 1) [スタート]－[プログラム]のMS－DOSプロンプトを選択します。  
※ コマンドプロンプト起動後は、“Windows2000 の場合”と同様です。

(Windows XP の場合)

- 1) [スタート]－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]のコマンドプロンプトを選択します。  
※ コマンドプロンプト起動後は、“Windows2000 の場合”と同様です。

(Windows VISTA 及び、Windows7 の場合)

- 1) [スタート]－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]のコマンドプロンプトを選択します。  
※コマンドプロンプト起動後は、“Windows2000 の場合”と同様です。

以上で、一括転送方式（一括送受信モジュール）環境設定の完了です。